

病院年報

令和3年度(2021)



独立行政法人 地域医療機能推進機構
Japan Community Health care Organization : JCHO

うつのみや病院
Utsunomiya Hospital

JCHO うつのみや病院年報

目次

1 発刊の挨拶		5 診療協力部門	
院長	4	薬剤部	46
事務長	5	臨床検査科	48
看護部長	5	放射線科	49
		リハビリテーション科	50
2 病院概況		栄養管理室	52
基本理念・基本方針	8	麻酔科診療部 (ME)	53
概要	9		
沿革	11	6 事務部門	
組織図	12	総務企画	56
会議・委員会	13	経理	57
医事統計	15	医事	58
3 統括診療部		7 健康管理センター	
循環器内科	20	診療部	60
消化器内科	21	看護部	61
腎臓内科	22	管理課	62
呼吸器内科	23		
外科	24	8 附属介護老人保健施設	
呼吸器外科	26	看護介護部門	64
整形外科	27	管理部門	65
脳神経外科	28	地域包括支援センター雀宮	66
泌尿器科	29	居宅介護支援センター	67
眼科	30		
小児科	31	編集後記	68
麻酔科	32		
外来診療	33	年報委員会	69
4 看護部			
4階南病棟	36		
4階東病棟	37		
3階北病棟	38		
3階東病棟	39		
透析室	40		
手術室・中央材料室	41		
外来	42		
訪問看護室	43		
地域医療連携室	44		

1

発刊の挨拶

ご挨拶



独立行政法人 地域医療機能推進機構 うつのみや病院
院長 八木澤 隆

日頃よりJCHOうつのみや病院の運営にご支援を賜りまして有り難うございます。

2021年度JCHOうつのみや病院年報をお届けいたします。

地域医療機能推進機構（JCHO）は2014年4月、57の病院、26の介護老人保健施設の構成により発足しました。当院の前身は宇都宮社会保険病院です。宇都宮市南部地区の中核病院として長年にわたり地域の医療に貢献してまいりました。JCHO移行後も「地域の住民、行政、関係機関と連携し、地域医療の改革を進め、安心して暮らせる地域づくりに貢献する」というJCHOの理念の下、病院は一貫して地域の皆様から求められる役割を果たすべく努めております。

私は2020年4月、当院に赴任しました。新型コロナウイルス感染症の拡大に合わせるかのように着任し、感染症への対応が最初の仕事となりました。未知の感染症が蔓延する中でこの診療にどのように取り組むか、一般診療をどう継続してゆくか、またこうした環境下での病院運営をどのようにしてゆくか、などが当初の課題でありました。一方で地域医療構想の中での病院の役割を見極め、中長期の将来展望を具体化することも課された仕事です。

新型コロナウイルス感染症に対しては感染管理委員会を中心に全職員の献身的な取り組みにより、院内での感染拡大を予防し、また院内クラスターに対しても的確に対処することができました。2021年9月からは重点医療機関としてコロナ診療を本格的に開始し、多くの入院治療を行ってきています。コロナ病棟設置によって様々な制約が生じた中、コロナ診療、一般診療を並行する体制が確立され、急性期診療も滞りなく維持されてきています。こうしてコロナ禍を乗り越え、今後を展開してゆけるのは職員各自が目前の仕事に真摯に取り組んでいることによるものと心より感謝しております。

地域医療構想への対応の一つとして回復期診療に重点を置くため、2020年12月、急性期の1病棟を地域包括ケア病棟に転換いたしました。推測通り、利用率は徐々に高まり、病院経営にも貢献しつつありましたが、2021年9月よりコロナ病棟として運用し、今に至ります。2022年1月には長年懸案であった新透析室が竣工し、増床もかないました。

こうして振り返りますと2021年度はめまぐるしい年であったと改めて感じます。

本年報は2021年度の病院現況、診療実績などを纏めたものです。コロナ感染症に翻弄された医療事情下での年報です。コロナ感染症終息後の病院運営の道標が数多く含まれるものと思います。関係者の皆様にはコロナ禍での当院の活動にお目通しいただきましたら幸いです。

最後に年報作成の企画、編集に取り組んだ広報委員会、また原稿作成、データ集計に携わった各部署、職員に御礼申し上げます。

独立行政法人 地域医療機能推進機構 うつのみや病院
事務長 青山 猛

2021年度を振り返って

2021年度当初は、新型コロナウイルス感染症の感染拡大もワクチン接種の本格化に伴い終息に向かうのではないかと淡い期待をしていましたが、現実には感染者数の増減を繰り返し『緊急事態宣言』、『まん延防止等重点措置』が数度にわたり発令されるなど、依然として行動の制限や自粛を余儀なくされた1年だったように思います。当院においても、歓送迎会や忘年会などのイベントも昨年度に引き続き中止となりました。

そのような中、1年遅れで開催された東京オリンピック・パラリンピックは、ほとんどの競技が無観客での開催となり少し残念ではありましたが、日本選手の活躍（過去最多のメダル獲得など）に長引くコロナ禍で疲弊した気持ちが少し晴れたように思います。

病院の運営においては、2020年度からJCHO本部の指導・支援のもと職員が一丸となって経営改善に取り組んだ成果が少しずつ現れ、2021年度上半期（8月累計）は黒字を確保出来ました。そんな矢先の8月の新型コロナウイルス感染症の感染拡大（緊急事態宣言発令）に伴い国（JCHO本部を通じて）及び栃木県からの要請を受け、これまでの“発熱外来”、“ワクチン接種”、宿泊料用施設やワクチン集団接種への“医療従事者の派遣”に加え、9月から“入院受入れ”を開始しました。入院受入れのため地域包括ケア病棟（49床）をコロナ専用病棟（確保病床18床）としたことにより、9月以降は入院収益が大幅に減少し月次の収支（補助金を除く）は赤字が続きました。（最終的な年度決算は補助金を入れて黒字でした。）

また、2021年度は当院の念願であり地域からの要望も多かった、透析病床の増床（10床→18床）整備も完了し2022年2月から新透析室での透析治療を開始できました。

今後も健全経営と診療機能の充実を両立させ、地域医療に貢献できるよう取り組んで参りたいと考えておりますので、よろしく願いいたします。

独立行政法人 地域医療機能推進機構 うつのみや病院
看護部長 園田 保子

2021年度は、コロナ禍に翻弄された1年でした。当院は、9月より本格的にコロナ患者の入院受入れを開始しました。その際には、前年度に開設しました地域包括ケア病棟を活用するために、一時的に転換という状況となりました。開設したばかりの地域包括ケア病棟をコロナ対応に転換することは苦渋の判断でした。そして、コロナ感染症の拡大に合わせ、発熱外来とともに安全に運営できるよう努めてきました。クラスター発生時には、地域の皆さまに心配やご迷惑をおかけしましたが、収束後には直ちに通常診療が行えるよう対応することができました。

入院・外来ともにコロナ診療とともに、通常診療が継続できるよう職員が団結して邁進した年でした。その年の様々な実績をまとめられたことうれしく思っております。

今後も病院の基本理念「誠意」「愛情」「努力」の下で、看護部は「患者さんに優しい病院」を目指して邁進してまいります。引き続き、ご指導ご支援をよろしく願いいたします。

2

病院概況

基本理念

『誠意』

常に誠意を以って日常業務にあたらう

『愛情』

患者様に公平に愛情を以ってあたらう

『努力』

常に医学技術の向上を目指し、近代医学を患者様に提供できるように努力しよう



基本方針

1. 患者様の権利や人間性を尊重した全人的な医療を目指します。
2. 医学の進歩に裏打ちされた、安全で良質な医療を提供します。
3. 宇都宮市南部地区の中核病院として、他の医療機関と連携し、地域の皆様に信頼され開かれた病院を目指します。
4. 地域の健康管理の担い手として、疾病予防に努めます。
5. 医療、介護及び福祉の連携を図り、健康で豊かな生活の支援に努めます。

概要

施設概略

開設	昭和21年 8 月
開設者	独立行政法人地域医療機能推進機構
施設名	うつのみや病院
病院長	八木澤 隆
所在地	栃木県宇都宮市南高砂町11-17
敷地面積	28,086.4 m ²
延床面積	18,747.9 m ²
許可病床数	199床（一般 153床 療養 46床）

病院管理者

病院長	八木澤 隆	(2022年 4 月より健康管理センター長兼任)
副院長	藤川 日出行	(循環器内科)
副院長	木平 百合子	(呼吸器内科、附属介護老人保健施設長兼任)
副院長	原 暢助	(泌尿器科、地域医療連携室長)
健康管理センター長	平川 隆一	(2022年 3 月まで)
統括診療部長	坂口 亮人	(整形外科診療部長)
院長補佐	梅田 裕司	(循環器内科診療部長)
院長補佐	栗田 英治	(脳神経外科診療部長)
看護部長	園田 保子	
事務長	青山 猛	

標榜診療科目

内科・循環器内科・呼吸器内科・消化器内科・腎臓内科・神経内科・小児科・外科・整形外科・脳神経外科・呼吸器外科・泌尿器科・産婦人科（休診中）・耳鼻咽喉科・皮膚科・眼科・放射線科・リハビリテーション科・麻酔科

機関の指定

保険指定医療機関・結核予防法指定医療機関・生活保護法指定医療機関・労災保険指定病院・原爆者指定医療機関・育成医療機関・身障手帳交付医療機関・その他毎年契約を行う診断契約

救急医療

二次救急病院群輪番制加入病院・救急指定病院

DPC

当院はDPC対象病院になっております医療機関別係数は1.3614です。

	基礎係数	1.0395
内訳	機能評価係数Ⅰ	0.2118
	機能評価係数Ⅱ	0.1101

学会認定関連施設

日本消化器内視鏡学会認定指導施設
日本透析学会認定医研修関連施設
日本眼科学会認定研修施設
日本循環器専門医研修施設
日本呼吸器学会関連施設
日本整形外科学会認定研修施設
日本超音波学会認定超音波専門医研修施設
日本外科学会外科専門医制度修練施設
日本消化器外科学会専門医制度関連施設
呼吸器外科専門医合同委員会認定修練施設
日本麻酔科学会認定施設
日本呼吸器内視鏡学会認定施設
日本消化器病学会関連施設
日本静脈経腸栄養学会 NST稼動施設認定
マンモグラフィ（乳房エックス線写真）認定検診施設
日本人間ドッグ学会研修施設
日本腎臓学会研修施設
日本禁煙学会教育施設
日本大腸肛門病学会関連施設

附属施設

健康管理センター
介護老人保健施設「うつのみや病院附属介護老人保健施設」
（入所者100名・通所者30名）

職員数(2022年3月31日現在)

常勤325名

医師31名、薬剤師9名、検査技師17名、放射線技師11名、栄養士3名、理学療法士16名、作業療法士9名、言語聴覚士5名、臨床工学技士4名、視能訓練士1名、保健師3名、看護師133名、准看護師2名、事務職員23名、診療情報管理員1名、医療社会事業専門員5名、介護福祉士28名、介護支援専門員7名、介護員1名、看護助手16名

非常勤92名

医師3名、検査技師2名、作業療法士1名、言語聴覚士1名、看護師19名、准看護師4名、事務職員41名、運転手3名、技能職員6名、介護福祉士3名、介護員3名、看護助手6名

自治医科大学うつのみや地域臨床教育センター

自治医科大学拠点病院として大学の建学理念を共有し、地域医療、卒然・卒後教育の充実と発展を図る目的で設置。センター長（山本尚史腎臓内科診療部長）以下8名の臨床教授が在籍。

うつのみや病院沿革

- 昭和21年 8月 旧軍需工場附属病院を栃木県国民健康保険団体連合会が買収し、内科・小児科・外科・放射線科・歯科の5診療科70床をもって、「健康保険 雀宮病院」として発足。
- 昭和28年 4月 財団法人栃木社会保険協会に経営受託を変更。
- 昭和32年 3月 国の結核対策強化に対応した結核病床200床の整備が完了。
- 昭和33年10月 社団法人全国社会保険協会連合会に経営受託を変更。
- 昭和53年 3月 成人病検診車を導入し、本格的な保健衛生活動を開始。
- 昭和53年 8月 「健康保険 雀宮病院」を「宇都宮社会保険病院」に名称を変更し、内科・呼吸器科・小児科・外科・整形外科・産婦人科・眼科・耳鼻咽喉科・放射線科・歯科の10診療科200床（一般病棟150床・結核病床50床）とする。
- 昭和58年 7月 栃木県の二次救急病院に指定される。（宇都宮市では、国立栃木病院・済生会宇都宮病院・宇都宮社会保険病院の3ヶ所）
- 昭和62年11月 昭和61年4月に着手された現南病棟及び健康管理センターの増改築が完了。
- 昭和62年12月 結核患者減少に対応し、結核病床を一般病床に変更。
- 平成3年 3月 総合整備計画に基づき、昭和63年8月に着手された現東病棟の改築工事が完了。
- 平成4年 3月 現北棟の改築、看護師宿舎新築、車庫新築を完了。
- 平成4年12月 外構工事の終了をもって総合整備計画を完了。この間、診療体制も拡充され、内科・呼吸器科・小児科・外科・整形外科・脳神経外科・泌尿器科・産婦人科・眼科・耳鼻咽喉科・放射線科・歯科の12診療科及び透析センターよりなる地域の中核病院としての役割を負うようになる。
- 平成8年 3月 老人保健施設を新築するため、平成7年11月付帯工事に着手し、厨房棟増築工事が完了。
- 平成8年 4月 栃木県保健医療計画で38床の増床が認められ、許可病床238床（一般病床230床・人間ドック8床）となる。
- 平成9年 3月 看護師宿舎・医師宿舎解体・車庫移設を完了。
- 平成10年 3月 本館地下改修（老人保健施設のエネルギーセンター）・老人保健施設が、外溝工事の終了をもって完了。
- 平成10年 4月 呼吸器外科・リハビリテーション科の診療科目が認められ、14診療科となる。
- 平成10年 5月 老人保健施設「サンビュー宇都宮」（入所者100名・通所者30名）を開設し、診療から社会復帰までの一貫性のある医療を進めている。
- 平成11年11月 栃木県保健医療計画で17床の増床が認められる。
- 平成12年 6月 財団法人日本医療機能評価機構一般病院種別Bに認定される。
- 平成12年11月 17床増床にともなう工事に着手。
- 平成13年 1月 診療科目麻酔科が認められ、同時に歯科の診療科目を廃止した。
- 平成14年 4月 増床工事が完了し、4病棟から5病棟になる。
- 平成16年 1月 46床を療養病床に変更する。
- 平成16年 4月 第2種感染症病床に指定される。（一般199床 療養46床 感染6床）
- 平成16年 7月 療養病棟（46床）を回復期リハビリテーション病棟とする。
- 平成16年12月 国際規格 ISO9001認証取得（英国・日本国）
- 平成17年 6月 日本医療機能評価機構より再認定される。
- 平成18年 6月 健康管理センターが社団法人日本病院会・日本人間ドック学会より認定される。
- 平成20年 6月 外来診察室および中央処置室改修工事完了
- 平成22年 4月 皮膚科の診療科目が認められ、15診療科となる。
- 平成24年 7月 循環器内科・消化器内科の診療科目が認められ、17診療科となる。
- 平成24年11月 栃木県DMAT指定病院に指定される。（平成24年11月1日指定）
- 平成25年11月 腎臓内科の診療科目が認められ、18診療科となる。
- 平成26年 4月 「宇都宮社会保険病院」から「独立行政法人地域医療機能推進機構うつのみや病院」に名称変更となる。
- 平成28年 6月 地域医療計画の下、第二種感染症指定医療機関の指定解除となり、感染症病床（6床）を返還し、許可病床数245床（一般199床・療養46床）となる。
- 平成30年 3月 許可病床数199床（一般病床153床 療養46床）に変更

会議・委員会

1. 会議

会議名称	会 員	内 容	開催頻度
管理者会議	院長・副院長・看護部長 事務長・事務部所属長	月次・決算報告、患者動向、算定概況、 その他経営に関すること	月 1 回
診療部(科)長会議	院長・副院長・診療部長	月次・決算報告、診療に関すること	月 1 回
管理診療会議	院長・副院長・看護部長 事務長・各部署所属長	月次・決算報告、部門報告、 委員会報告、他	月 1 回

2. 委員会

会議名称	会 員	内 容	開催頻度
労働安全衛生委員会	院長・事務長・医局・看護部・ 薬剤部・事務部・老健	労働安全衛生関係	月 1 回
患者サービス委員会	院長・看護部長・事務長・ 医局・看護部・薬剤部・検査科・ 放射線科・栄養管理室・リハビリ・ ME・事務部・健管・老健	患者サービス関係	月 1 回
広報企画委員会	院長・医局・看護部・検査科・ 放射線科・リハビリ・事務部・ 健管・老健	「新しいずみ」「年報」作成関係・ 情報システム推進関係・広報関係・ 地域医療連携関係	月 1 回
感染管理委員会	院長・看護部長・事務長・医局・ 看護部・薬剤部・検査科・ 放射線科・栄養管理室・リハビリ・ 事務部・老健	振興・再興感染症対策・感染症関係・ インフルエンザ対策関係	月 1 回
医療安全管理委員会	院長・看護部長・事務長・医局・ 看護部・薬剤部・検査科・ 放射線科・栄養管理室・リハビリ・ ME・事務部・老健	IC診療情報伝達改善・ 医療安全対策関係	月 1 回
診療情報連絡委員会	医局・看護部・薬剤部・検査科・ 放射線科・リハビリ・事務部	診療録管理関係	随 時
保険委員会	看護部長・医局・薬剤部・検査科・ 放射線科・事務部	保険関係(請求・返戻・査定等)・ DPC関係	随 時
物品管理委員会	看護部長・事務長・医局・薬剤部・ リハビリ・ME・事務部	物品管理関係・機器購入関係	随 時
救急委員会	医局・看護部・薬剤部・検査科・ 放射線科・栄養管理室・事務部	救急関係	随 時
手術・輸血委員会	医局・看護部・薬剤部・検査科・ 事務部	輸血関係・手術関係	月 1 回
栄養サポート委員会 (NST)	医局・看護部・薬剤部・検査科・ 栄養科・事務部・老健	適切な栄養管理の実施・ 合併症の予防・早期発見・治療・ 新しい知識・技術の紹介・啓発・ 早期退院・社会復帰・回診	月 1 回
薬事委員会	医局・看護部・薬剤部・事務部	薬事関係	月 1 回
治験審査委員会	看護部長・医局・薬剤部	治験関係	随 時
医療廃棄物・ 医療ガス安全委員会	医局・看護部・薬剤部・検査科・ 事務部	医療廃棄物関係・医療ガス関係	随 時

会議名称	会 員	内 容	開催頻度
臨床検査委員会	医局・検査科・事務部	臨床検査関係	随 時
褥瘡対策委員会	医局・看護部・薬剤部・栄養管理室・リハビリ・事務部・老健	褥瘡ケア関係・回診	月 1 回
倫理委員会	看護部長・事務長・医局・薬剤部・検査科・事務部・外部委員	生命倫理関係・臨床倫理関係	随 時
化学療法委員会	医局・看護部・薬剤部・栄養管理室・事務部	化学療法関係	年 3 回
図書委員会	医局・看護部・薬剤部・検査科・放射線科・リハビリ・事務部	図書関係	随 時
防災委員会	看護部長・事務長・医局・看護部・薬剤部・検査科・放射線科・栄養管理室・ME・事務部・老健	大規模災害関係	随 時
透析機器安全管理委員会	医局・看護部・検査科・ME・事務部	透析機器安全管理関係	随 時
栄養管理委員会	院長・看護部長・事務長・看護部・栄養管理室・老健・給食業者	患者給食関係	隔 月 (偶数月)
契約審査委員会	看護部長・医局・事務部・老健	契約に関すること	随 時
看護師特定行為研修管理委員会	院長・看護部長・事務長・薬剤部・ME・事務部	研修関係・履修管理関係	月 1 回
地域包括ケア病棟運営委員会	看護部長・事務長・医局・薬剤部・リハビリ・事務部・老健	病棟運営に関すること	随 時

医事統計

令和3年度(2021年度)入院科別延患者数

科 別	項 目	延 人 数	割 合 (%)	前 年 度 延 人 数	増 減		1 日 当 平均患者数
					人 数	割 合 (%)	
一 般 内 科		19	0.0%	171	-152	-800.0%	0.1
呼 吸 器 内 科		6,571	13.0%	5,903	668	10.2%	18.0
消 化 器 内 科		8,361	16.5%	7,296	1,065	12.7%	22.9
循 環 器 内 科		7,850	15.5%	7,619	231	2.9%	21.5
腎 臓 内 科		5,522	10.9%	5,486	36	0.7%	15.1
小 児 科		358	0.7%	169	189	52.8%	1.0
外 科		6,378	12.6%	6,803	-425	-6.7%	17.5
整 形 外 科		7,356	14.5%	11,741	-4,385	-59.6%	20.2
脳 神 経 外 科		5,878	11.6%	5,116	762	13.0%	16.1
呼 吸 器 外 科		1,222	2.4%	1,259	-37	-3.0%	3.3
泌 尿 器 科		828	1.6%	787	41	5.0%	2.3
眼 科		335	0.7%	402	-67	-20.0%	0.9
合 計		50,678	100.0%	52,752	-2,074	-4.1%	138.8

※内科に人工透析科、整形外科にリハビリテーション科を含む

令和3年度(2021年度)外来別患者数

科 別	項 目	延 人 数	割 合 (%)	前 年 度 延 人 数	増 減		1 日 当 平均患者数
					人 数	割 合 (%)	
一 般 内 科		16,022	17.5%	16,410	-388	-2.4%	66.2
呼 吸 器 内 科		5,739	6.3%	5,440	299	5.2%	23.7
消 化 器 内 科		7,749	8.5%	7,322	427	5.5%	32.0
循 環 器 内 科		8,282	9.1%	8,209	73	0.9%	34.2
腎 臓 内 科		5,004	5.5%	5,043	-39	-0.8%	20.7
血 液 透 析		5,017	5.5%	3,610	1,407	28.0%	20.7
小 児 科		3,273	3.6%	2,546	727	22.2%	13.5
外 科		6,450	7.1%	6,257	193	3.0%	26.7
整 形 外 科		9,524	10.4%	10,354	-830	-8.7%	39.4
脳 神 経 外 科		2,252	2.5%	1,895	357	15.9%	9.3
呼 吸 器 外 科		1,468	1.6%	1,171	297	20.2%	6.1
皮 膚 科		2,061	2.3%	2,316	-255	-12.4%	8.5
泌 尿 器 科		4,984	5.5%	4,759	225	4.5%	20.6
眼 科		10,777	11.8%	11,315	-538	-5.0%	44.5
耳 鼻 咽 喉 科		1,769	1.9%	1,793	-24	-1.4%	7.3
放 射 線 科		534	0.6%	510	24	4.5%	2.2
麻 酔 科		481	0.5%	490	-9	-1.9%	2.0
合 計		91,386	100%	89,483	1,903	2.1%	377.6

※内科に人工透析科、整形外科にリハビリテーション科を含む

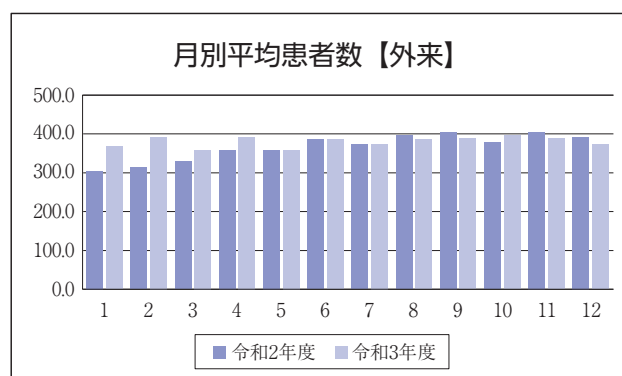
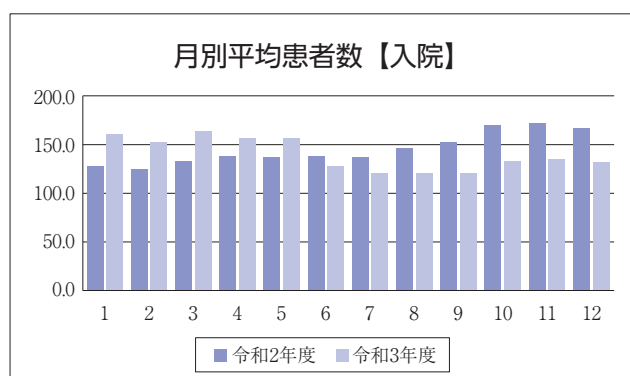
前年度比平均患者数

1. 入院

年度 \ 月	4	5	6	7	8	9	10	11	12	1	2	3	月平均
令和2年度	127.0	123.8	132.2	137.3	136.3	137.9	136.0	144.8	152.2	170.1	171.4	166.4	144.5
令和3年度	159.3	151.1	161.9	155.5	154.5	127.8	120.6	118.7	119.6	133.2	134.1	129.9	138.8

2. 外来

年度 \ 月	4	5	6	7	8	9	10	11	12	1	2	3	月平均
令和2年度	301.5	312.3	327.9	355.7	359.1	385.3	371.2	394.8	401.2	376.1	401.5	388.7	363.9
令和3年度	364.6	392.3	355.0	389.1	358.9	385.0	374.2	381.6	387.2	395.4	385.8	369.9	377.6



手術件数

手術件数については、39ページ「手術室・中央材料室」に記載しております。

時間内・時間外別救急車受入状況

		4月		5月		6月		7月		8月		9月		10月		
		2年度	3年度	2年度	3年度	2年度	3年度	2年度	3年度	2年度	3年度	2年度	3年度	2年度	3年度	
時間内	要請回数	27	54	27	46	47	55	62	72	68	67	61	58	70	44	
	受入人数	17	30	18	24	36	28	42	54	45	44	42	32	47	27	
	断り件数	10	24	9	22	11	27	20	16	23	21	19	26	23	17	
	診療日数	21	21	18	18	22	22	21	20	20	21	20	20	22	21	
	一日当たり平均要請	1.3	2.6	1.5	2.6	2.1	2.5	3.0	3.6	3.4	3.2	3.1	2.9	3.2	2.1	
	一日当たり平均受入	0.8	1.4	1.0	1.3	1.6	1.3	2.0	2.7	2.3	2.1	2.1	1.6	2.1	1.3	
	受入率	63.0%	55.6%	66.7%	52.2%	76.6%	50.9%	67.7%	75.0%	66.2%	65.7%	68.9%	55.2%	67.1%	61.4%	
時間外	通常	要請件数	50	65	50	68	61	64	51	75	70	95	56	66	68	112
		受入人数	25	34	29	33	37	41	30	47	39	50	41	40	44	65
		断り人数	25	31	21	35	23	20	21	26	31	40	15	26	24	45
		日数	25	24	25	24	24	25	25	25	26	24	24	24	26	24
		一日当たり平均要請	2.0	2.7	2.0	2.8	2.5	2.6	2.0	3.0	2.7	4.0	2.3	2.8	2.6	4.7
		一日当たり平均受入	1.0	1.4	1.2	1.4	1.5	1.6	1.2	1.9	1.5	2.1	1.7	1.7	1.7	2.7
	受入率	50.0%	52.3%	58.0%	48.5%	60.7%	64.1%	58.8%	62.7%	55.7%	52.6%	73.2%	60.6%	64.7%	58.0%	
	輪番	要請件数	35	28	30	31	26	51	42	71	31	36	31	52	19	41
		受入人数	16	17	23	25	15	38	27	43	20	19	26	29	13	27
		断り人数	19	11	7	6	8	12	14	25	11	15	5	23	6	13
		日数	5	6	6	5	5	5	6	6	5	5	6	6	5	6
		一日当たり平均要請	7.0	4.7	5.0	6.2	5.2	10.2	7.0	11.8	6.2	7.2	5.2	8.7	3.8	6.8
		一日当たり平均受入	3.2	2.8	3.8	5.0	3.0	7.6	4.5	7.2	4.0	3.8	4.3	4.8	2.6	4.5
	受入率	45.7%	60.7%	76.7%	80.6%	57.7%	74.5%	64.3%	60.6%	64.5%	52.8%	83.9%	55.8%	68.4%	65.9%	
	小児輪番	要請件数	5	4	4	10	1	2	5	18	3	5	7	4	3	7
受入人数		3	4	3	9	0	2	4	17	3	5	5	4	2	6	
断り人数		2	0	1	1	1	0	1	1	0	0	2	0	1	1	
日数		5	6	7	6	5	5	7	7	5	6	6	6	5	6	
一日当たり平均要請		1.0	0.7	0.6	1.7	0.2	0.4	0.7	2.6	0.6	0.8	1.2	0.7	0.6	1.2	
一日当たり平均受入		0.6	0.7	0.4	1.5	0.0	0.4	0.6	2.4	0.6	0.8	0.8	0.7	0.4	1.0	
受入率	60.0%	100.0%	75.0%	90.0%	0.0%	100.0%	80.0%	94.4%	100.0%	100.0%	71.4%	100.0%	66.7%	85.7%		

		11月		12月		1月		2月		3月		累計		
		2年度	3年度	2年度	3年度	2年度	3年度	2年度	3年度	2年度	3年度	2年度	3年度	
時間内	要請回数	47	70	62	65	54	63	47	78	59	80	631	752	
	受入人数	36	34	41	35	26	23	29	32	31	40	410	403	
	断り件数	11	32	21	29	28	40	18	46	28	40	221	340	
	診療日数	19	20	20	20	19	19	18	18	23	22	243	242	
	一日当たり平均要請	2.5	3.5	3.1	3.3	2.8	3.3	2.6	4.3	2.6	3.6	2.6	3.1	
	一日当たり平均受入	1.9	1.7	2.1	1.8	1.4	1.2	1.6	1.8	1.3	1.8	1.7	1.7	
	受入率	76.6%	48.6%	66.1%	53.8%	48.1%	36.5%	61.7%	41.0%	52.5%	50.0%	65.0%	53.6%	
時間外	通常	要請件数	72	78	60	76	79	101	61	96	68	83	746	979
		受入人数	49	37	38	33	38	34	38	34	40	39	448	487
		断り人数	23	35	22	41	41	67	23	62	28	44	297	472
		日数	24	25	26	24	25	24	23	23	23	25	296	291
		一日当たり平均要請	3.0	3.1	2.3	3.2	3.2	4.2	2.7	4.2	3.0	3.3	2.5	3.4
		一日当たり平均受入	2.0	1.5	1.5	1.4	1.5	1.4	1.7	1.5	1.7	1.6	1.5	1.7
	受入率	68.1%	47.4%	63.3%	43.4%	48.1%	33.7%	62.3%	35.4%	58.8%	47.0%	60.1%	49.7%	
	輪番	要請件数	19	45	30	49	59	60	27	58	29	34	378	556
		受入人数	16	27	21	29	34	34	16	30	16	16	243	334
		断り人数	3	17	9	17	25	26	11	28	13	18	131	211
		日数	6	5	5	6	6	5	5	5	5	5	65	65
		一日当たり平均要請	3.2	9.0	6.0	8.2	9.8	12.0	5.4	11.6	5.8	6.8	5.8	8.6
		一日当たり平均受入	2.7	5.4	4.2	4.8	5.7	6.8	3.2	6.0	3.2	3.2	3.7	5.1
	受入率	84.2%	60.0%	70.0%	59.2%	57.6%	56.7%	59.3%	51.7%	55.2%	47.1%	64.3%	60.1%	
	小児輪番	要請件数	5	3	3	7	6	7	4	6	0	9	46	82
受入人数		5	3	2	7	6	6	4	5	0	6	37	74	
断り人数		0	0	1	0	0	1	0	1	0	3	9	8	
日数		6	5	6	6	6	7	5	5	6	5	69	70	
一日当たり平均要請		0.8	0.6	0.5	1.2	1.0	1.0	0.8	1.2	0.0	1.8	0.7	1.2	
一日当たり平均受入		0.8	0.6	0.3	1.2	1.0	0.9	0.8	1.0	0.0	1.2	0.5	1.1	
受入率	100.0%	100.0%	66.7%	100.0%	100.0%	85.7%	100.0%	83.3%	0.0%	66.7%	80.4%	90.2%		

3

統括診療部

循環器内科

【職員紹介】

●常勤医

藤川 日出行（副院長）

日本内科学会認医・指導医、日本循環器学会専門医、日本心臓ペースンク気生理学（ICD研修医）、自治医科大学医学部 臨床教授、日本DMAT隊員

梅田 裕司（診療部長兼院長補佐）

日本内科学会認医・指導医、日本内科学会総合内科専門医、日本循環器学会専門医、自治医科大学医学部 臨床教授

横田 克明（循環器内科医長）

日本内科学会認医、日本内科学会総合内科専門医、日本循環器学会専門医、日本心インターベンション治療学会認定医

●非常勤医

齋藤 俊祐（自治医科大学循環器内科所属）

【業務内容】

当科では、主に心不全、虚血性心疾患、不整脈などの疾患に対する診断、治療を行っている。虚血性心疾患については、トレッドミル運動負荷検査や心臓CT等で診断し、最新のガイドライン（治療指針）に従い、必要があれば冠動脈インターベンション（ステント留置等）等の治療ができる体制をとっている。不整脈は、徐脈性の不整脈（洞不全症候群や完全房室ブロック等）については当院でペースメーカー植え込み術を行っているが、頻脈性の不整脈（心房細動や発作性上室性頻拍等）でカテーテルアブレーション治療が必要な場合は、自治医科大学の近隣の高次医療機関に紹介している。また、検査技師への心エコー教育も積極的に行っている。

尚、当院は日本循環器学会認定循環器科専門医研修施設（旧制度）、研修関連施設（新制度）となっている。

【2021年度総括】

コロナ禍で空床に余裕がないことが多く、近隣のクリニック等からの紹介患者を受け入れられないことも多かった。今後のCOVID19の感染状況にもよるが、可能な範囲で近隣の医療機関のニーズに応えていきたい。

消化器内科

【職員紹介】

●常勤医

中澤 克行（消化器内科診療部長）

日本内科学会認定内科医、日本内科学会総合内科専門医、日本消化器内視鏡学会専門医、日本消化器病学会専門医、嚥下機能評価研修修了、自治医科大学医学部 臨床教授

北村 昌史（2022年4月より）

日本内科学会認定医、日本ヘリコバクター学会ピロリ菌感染症認定医、日本カプセル内視鏡学会認定医

後藤 翔太郎

田中 朗嗣

●非常勤医

長嶺 伸彦

日本内科学会認定医・指導医、日本消化器内視鏡学会専門医・指導医、日本消化器病学会専門医・指導医、日本肝臓学会専門医・指導医、日本超音波医学会専門医・指導医、日本レーザー医学会認定医（2種）、アメリカ消化器内視鏡学会、日本肝臓学会東部会評議員、日本消化器内視鏡学会関東支部会評議員及び本部学術評議員、日本消化器病学会関東支部会評議員、日本超音波医学会代議員

青木 崇

【業務内容】

消化管（食道・胃・十二指腸・小腸・大腸）、肝臓、胆道、膵臓など消化器全般にわたり診療を行っている。

通常内視鏡検査（上部消化管、大腸）に加え、内視鏡的止血術や、大腸ポリープ切除（EMRやコールドスネアポリペクトミー）、閉塞性黄疸に対する内視鏡的ドレナージ術、総胆管結石に対する截石術、悪性胆道狭窄に対するステント留置術など治療的内視鏡、さらには消化管早期がんに対する内視鏡的粘膜下層剥離術（ESD）、大きな総胆管結石に対する内視鏡的大口径バルーン拡張術（EPLBD）なども数多く行っている。

また肝疾患に対する核酸アナログや直接作用型抗ウイルス剤（DAA）、炎症性腸疾患に対する抗TNF α 製剤などによる治療にも対応している。

肝臓がん治療については、自治医大附属病院と連携し動脈塞栓術（当院・自治医大）、ラジオ波・分子標的薬（自治医大）など最適な治療を行えるよう努めている。

【2021年度総括】

新型コロナウイルス感染症の影響もあったが、概ね従来通りの診療を行うことができた。またUnderwater EMRなど新しい内視鏡手技も導入した。今後も各種ガイドラインに沿った診療を行うと同時に日進月歩の医療技術を取り入れるよう心がけていく。

腎臓内科

【職員紹介】

●常勤医

山本 尚史（腎臓内科部長）

日本内科学会認定内科医、日本内科学会総合内科専門医・指導医、日本腎臓学会腎臓専門医・指導医、日本透析医学会透析専門医、自治医科大学医学部 臨床教授

中澤 英子（腎臓内科医長）

日本内科学会認定内科医、日本内科学会総合内科専門医、日本腎臓学会腎臓専門医、日本透析医学会専門医、自治医科大学医学部 臨床教授

谷澤 志帆

日本内科学会認定内科医、日本内科学会総合内科専門医、日本腎臓学会腎臓専門医、日本透析医学会透析専門医

●非常勤医

草野 英二（名誉院長）

日本内科学会認定医・指導医、日本腎臓学会腎臓専門医・指導医、日本透析医学会指導医・専門医

【業務内容】（2021年1月から2021年12月）

腎生検件数	4件
内シャント造設術件数	33件
シャントPTA件数	46件
長期留置カテーテル留置件数	4件

【2021年度総括】

常勤医が、2名から3名体制になったことから、腎臓内科外来枠を週7枠に拡大し診療を充実させることができた。

【2022年度目標・計画】

CKD診療に関して、近隣クリニックとの地域医療連携を維持していく。

呼吸器内科

【職員紹介】

●常勤医

大貫 次利（呼吸器内科医長）

日本呼吸器学会 呼吸器専門医、日本呼吸器内視鏡学会 気管支鏡専門医、日本内科学会 総合内科専門医、ICD

黒崎 綾子（2022年4月より）

日本内科学会 認定内科医

木平 百合子（副院長兼附属介護老人保健施設施設長）

日本呼吸器学会 呼吸器専門医/指導医、日本呼吸器内視鏡学会 気管支鏡専門医/指導医、日本内科学会 認定内科医、ICD、日本結核病学会 結核抗酸菌症認定医、日本抗菌化学療法認定医、日本禁煙学会認定専門医・指導医、肺癌CT検診認定医、初級呼吸器ケア指導士、日本人間ドック学会認定指定医・専門医・指導医、人間ドック検診情報管理指導士（人間ドックアドバイザー）、日本医師会認定健康スポーツ医、日本医師会認定産業医、日本認知症予防学会認定認知症予防専門士指導者、日本認知症予防学会認知症予防専門医、日本転倒予防学会認定転倒予防指導士、認知症サポート医、ロコモアドバイザー とちぎ、臨床研修指導医講習受講修了、老人保健施設管理認定医、高齢者栄養療法認定医、老健施設リスクマネージャー、在宅褥瘡ケア研修修了、自治医科大学医学部 臨床教授、獨協医科大学医学部 臨床教授

照内 聡美（健康管理センター）

日本呼吸器学会 呼吸器専門医、日本内科学会 総合内科専門医、ICD、日本医師会認定産業医、日本結核非結核性抗酸菌症学会 結核・抗酸菌 認定医

鈴木 恵理（健康管理センター医長）

日本呼吸器学会 呼吸器専門医、日本呼吸器内視鏡学会 気管支鏡専門医、日本内科学会 総合内科専門医、ICD、人間ドック健診情報管理指導士（人間ドックアドバイザー）、マンモグラフィ読影試験成績認定医、日本医師会認定産業医、乳がん検診超音波検査判定医、乳癌検診超音波検査判定医、肺癌CT検診認定医、日本人間ドック学会（遺伝学的検査アドバイザー）、日本人間健診認定医・専門医

【業務内容】

外来 平均478名/月

入院 のべ548名/月

気管支鏡検査 16件/年

新型コロナウイルス感染症入院数 104名入院加療（2021年9月から2022年3月）

【2021年度総括】

2021年度の大きな仕事は、コロナ病棟の立ち上げと運営でした。当院は施設が古く感染対策を十分にとることが難しいことから、当初はコロナ患者の受け入れを行っていませんでした。2021年6月から始まった第5波の患者数増加に伴い、県からの繰り返しの受け入れ要請と地域の感染者数増加から、病棟単位での受け入れを開始する方針に変更となりました。病院一丸となって受け入れ態勢の構築と入院患者の調整を行い、2021年9月より入院受け入れを開始しました。2022年1月から入院が増え、2月は満床に近い状況での運用が続きました。当院かかりつけのみならず、病床の不足している県南および安足地域からの入院依頼が多くありました。

新型コロナウイルス感染症の流行のため、気管支鏡検査や肺機能検査に関しては検査数が大幅に減少しています。

外科

【職員紹介】

●常勤医

松本 志郎（外科医長）（2022年4月より非常勤）

日本外科学会専門医、日本消化器病学会専門医、日本消化器外科学会専門医、日本食道学会食道科認定医、日本消化器内視鏡学会専門医、日本がん治療認定医、消化器がん外科治療認定医、マンモグラフィ読影試験成績認定医、日本内視鏡外科学会技術認定医

目黒 由行（外科医長）（2022年4月より）

日本外科学会専門医、日本消化器外科学会 専門医 消化器がん外科治療認定医、日本消化器病学会専門医 指導医、日本がん治療認定医機構 がん治療認定医、日本肝胆膵外科学会 評議員、NST教育セミナー修了（日本外科代謝栄養学会）

村橋 賢

日本外科学会専門医、日本内視鏡外科学会技術認定医

増子 駿

日本外科学会専門医

高見 真梨子

日本外科学会専門医

●非常勤医

堀江 久永

自治医科大学 外科学講座 消化器外科 教授

【業務内容】

上記4名の常勤医と週に1回、自治医科大学病院消化器外科からの非常勤医師派遣の手術支援によって診療業務（外来、病棟、手術）を行っている。肝胆膵疾患は主に目黒が、下部消化管疾患は主に村橋が中心になって診療にあたっている。そのほか、鼠径ヘルニアや急性虫垂炎、腸閉塞をはじめとした良性疾患も多く、平日日中と二次救急診療日には緊急手術にも柔軟に対応している。また、外来では検診や局所麻酔下の手術も行っている。

【2021年度総括】

年間の外科手術件数は全身麻酔症例330例、それ以外の症例は67例であり、合計397例であった。主な疾患は鼠径ヘルニア、急性虫垂炎、胆石症、大腸癌であった。本邦における新型コロナウイルス感染症は以前として蔓延しており、医療機関に対する手術延期や手術件数の縮小の要請があるなか、当科においては各部署の協力のもと、通常通りの手術業務を行うことができた。毎月30件以上の手術件数を維持し、緊急手術は平均6件/月行っていた。

常勤医師は4名であるが、月曜日から金曜日までの午前は毎日外来初診対応を行い、午後は紹介があればいつでも対応している。手術は基本的に毎日午後行っている。一部の肝胆膵疾患、大腸疾患に関しては、自治医科大学病院消化器外科からの非常勤医師に手術支援を依頼していた。

診療内容では当科でも腹腔鏡手術を幅広く行い、胆石症や虫垂炎、大腸癌をはじめ、腹壁癒痕ヘルニアに対しても積極的に行った。胆嚢摘出、虫垂切除、大腸癌手術では95%の症例で腹腔鏡手術を行なった。ヘルニア手術に関しては、全身麻酔ではリスクがある症例では脊椎麻酔を選択しており、腹腔鏡手術は80%であった。消化器癌に対しては治療ガイドラインに準じた診療を行い、手術、化学療法、緩和ケアまで一貫した診療を行い、集学的治療にも取り組んでいる。虫垂炎や胆嚢炎、腸閉塞などはチームで手術適応を検討しながら診療を行い、胆石症・胆嚢炎に関しては、消化器内科と連携し、採石やENBDを行ったり、高度な炎症や癒着による摘出困難症例に対しては安全性を重視した手術を行った。

【2022年度目標・計画】

2022年7月時点では、新型コロナウイルス感染症の終息はまだまだ見えず、ワクチン接種も順調には進んでいない状況である。当院では幸い医療物品の不足には至っておらず、引き続き新型コロナウイルス感染症に対応しつつ、外科的治療が必要な症例にも十分な治療が提供できる体制を維持することが重要である。

診療内容としては、これまでと同様にガイドラインに則った標準治療を行い、手術に関しては安全かつ確実な治療を提供する。その上で、低侵襲性を追求できるよう各々の知識の習得、技術の向上、チームでの手技の定型化を目指したい。

現在、近隣のクリニックからの御紹介と、自治医科大学病院での手術枠確保が困難な良性疾患（虫垂炎、胆石症、ヘルニア、人工肛門閉鎖）の紹介が手術症例の中心である。今後は引き続き近隣のクリニックと連携しつつ、さらに御紹介いただけるよう当科の情報を発信していく。また、大学病院で手術まで待機期間がある癌患者さんを当科で対応できるよう連携し、地域医療を担う病院としてアピールしていきたい。

呼吸器外科

【職員紹介】

●常勤医（呼吸器外科）

曾我部 将哉

日本外科学会 専門医、日本呼吸器外科学会 呼吸器外科専門医、日本呼吸器内視鏡学会 気管支鏡専門医、日本がん治療認定機構 がん治療認定医、緩和ケア研修会修了

●非常勤医（血管外科）

阿久津 博彦

日本外科学会 専門医、心臓血管外科専門医認定機構 心臓血管外科専門医

【業務内容】

呼吸器外科は曾我部が原発性肺癌、転移性肺腫瘍、縦隔腫瘍、気胸、膿胸などの疾患に対して診療業務（外来、手術、入院管理）を行っている。手術に関しては自治医科大学附属病院 呼吸器外科の支援によって行っている。

また週に1回程度の自治医科大学附属病院 心臓血管外科からの非常勤医師に来て頂き、心臓血管外科外来および手術に関しては下肢静脈瘤などの手術を行って頂いている。

【2021年度総括】

2021年の手術総数は呼吸器外科手術が77例であり、気胸・膿胸に対する手術が43例と約半数を占めた。残り半数は原発性肺癌・転移性肺癌・縦隔腫瘍に対する手術を行い、様々な疾患を多岐に治療できた。多くの症例を鏡視下手術で行うことができた。

血管外科手術は36例であり、下肢静脈瘤に対する手術が33例を占めた。自治医科大学附属病院 心臓血管外科からの非常勤医師に積極的に手術を行って頂いた。

近隣からの気胸・膿胸などの緊急の治療依頼を今後も積極的に受け入れたく思っております。これまでと同様に地域、大学病院との連携を図り、質の高い医療を提供したく思っております。

整形外科

【職員紹介】

●常勤医

坂口 亮人（統括診療部長）

日本整形外科学会専門医、日本人工関節学会認定医、自治医科大学医学部 臨床教授

中島 光晴

日本整形外科学会専門医

天海 裕至

日本外科学会専門医

渡邊 康平（2022年4月より）

●非常勤医

西村 貴裕

日本整形外科学会専門医

齊藤 寿大

日本整形外科学会専門医

【業務内容】

〈外 来〉

各種関節疾患（変形性関節症など）、脊椎疾患（変形性脊椎症、腰部脊柱管狭窄症、椎間板ヘルニアなど）、外傷（骨折、脱臼、などなど）などに対して主に保存療法を行った。外来患者数は9,524人

〈手 術〉

骨折などの外傷など通常の整形外科手術は行っているが、特に2016年度から、主に股関節手術を中心として行っている。特に高い技術を求められる骨盤骨切り術、大腿骨骨切り術、人工股関節再置換術などは自治医大から当院に紹介されて来ている。殊に再置換術の際に必要な同種骨移植のできる病院が栃木県内でまだ少ない（自治医大でも未だである）ため、合併症の多いハイリスク症例も当院を頼って来るのだが、各科と麻酔科のただならぬ協力のもと、困難な手術を行ってきている。

最近（患者さんの希望により）骨切り術が減って、人工関節症例が増えている傾向である。

2021年の手術件数は、股関節関連手術137（通常的人工股関節130,人工股関節再置換術6,骨切り術1）、外傷手術57,その他27であった。

【2021年度総括】

新型コロナウイルス感染症の真ただ中ではあったが、幸い特に大きな制限をすることなく、手術・診療を行うことができた。手術内容としては外傷が少ない印象であった。新型コロナで外出を控えた人が多かったのかもしれない。股関節関連では、特に骨切り術の少ない1年であった。

脳神経外科

【職員紹介】

●常勤医

栗田 英治（脳神経外科診療部長）

日本脳神経外科学会 専門医、日本リハビリテーション医学会 専門医

【業務内容】

外来患者数 2,252人（初診229人、再診2,023人）

救急応需率 73.2%

入院患者数 131人

脳血管障害75例、頭部外傷34例、脳腫瘍4例、その他18例

手術件数 29件

くも膜下出血、脳動脈瘤頸部クリッピング術1件、未破裂脳動脈瘤 コイル塞栓術1件、脳出血 定位的脳内血種除去術1件、頸動脈ステント留置術1件、頭蓋内腫瘍摘出術1件、慢性硬膜下血腫穿孔洗浄術19件、その他（シャント手術、硬膜下膿瘍除去術等）5件

回復期リハビリテーション患者数 54人

脳血管疾患等リハビリテーション実績指数 62.0、在宅復帰率 66.7%

嚥下造影 36件、嚥下内視鏡 28件

【2021年度総括】

2019年度まで3年間、脳神経外科常勤医師不在で、2020年4月から常勤の診療を再開した。一人体制での診療だが、自治医科大学等と連携をとって、脳神経外科疾患全般に対応した。

2020年度と比較して、外来患者数は19.5%増加した。手術件数も81.2%増加したが、まだまだ症例が少ない状態である。

急性期から早期にリハビリテーションを開始し、回復期リハビリテーションへとスムーズに移行することを目指し、高い実績を上げることができた。嚥下造影、嚥下内視鏡を行い、適切な評価をもとに嚥下機能訓練を行った。

泌尿器科

【職員紹介】

●常勤医

原 暢助（副院長）

日本泌尿器科学会専門医・日本医師会認定産業医

●非常勤医

徳江 章彦

自治医科大学名誉教授

藤崎 明

自治医科大学講師・日本泌尿器科学会専門医・指導医

【業務内容】

外来総患者数 4,984名

新規患者数 391名

入院延べ患者数 828名

手術件数 82件

【2021年度総括】

外来は水曜日午前に徳江章彦自治医科大学名誉教授が担当、それ以外はすべて原が担当した。

2021年は新型コロナ蔓延のために一時的に受診控えがあり外来受診者数が減少した時もあったものの、幸いにも一年を通しての患者数を見ると前年度を上回っていた。

近年の高齢化に伴い排尿に問題を抱える方が増え、患者数が増加していると考えられる。

外来患者は前立腺肥大症や過活動膀胱など下部尿路症状を訴える方が多く、さらに尿路性器感染症や悪性腫瘍にも対応している。特に前立腺癌の方は増加傾向にあり、診断時転移がある、あるいは悪性度の高いhigh riskな症例や、ホルモン療法が効かなくなった去勢抵抗性前立腺癌も増えてきている。

このような方には積極的に化学療法や新規ホルモン剤を使用しての治療を行っている。

入院に関しては常勤医一人体制のためにmajorな手術に対応することができず、あまり多くの手術件数にはならなかった。このために入院患者数はあまり伸びなかったのかもしれない。

【2022年度目標】

当院がある宇都宮南地区には泌尿器科を標榜する医療機関は少ない。このため近隣のクリニックとの紹介・逆紹介を緊密にし地域との連携をしっかりと行い、宇都宮南地区の泌尿器科診療を堅実に進めて患者数の増加につなげていきたい。

また当院近隣には獨協医科大学・自治医科大学・栃木県立がんセンターがあり、高度な泌尿器科治療を要する方のために緊密な連携を今後も取っていきたいと考えている。

眼 科

【職員紹介】

●常勤医

齋藤 実（眼科医長）（2022年4月より）

日本眼科学会 専門医、獨協医科大学臨床研修指導医養成講習会修了

田中 智子（2022年3月まで）

日本眼科医会専門医

●非常勤医

澤野 宗顕（金曜日）

新井 郁代（木曜日）

山崎 俊（火曜日）

●常勤視能訓練士

堀川 真紀

【業務内容】

2021年度は、常勤医師2名（非常勤医1名）体制から、常勤医1名（非常勤医3名）での診療体制に変更になりました。外来診察は、午前は初診と再診外来を行い、午後は重症患者の診察、手術の術前説明、抗VGFI硝子体注射、STTA、レーザー治療などの処置を行いました。手術は、白内障手術を主に、月曜日の午後、火曜日の午前・午後に行いました。澤野 宗顕（金曜日）医師は、一般眼科だけではなく、眼瞼痙攣などのボットックス治療、結膜弛緩症など治療も行っております。

【2021年度総括】

2021年度は常勤医が2名から1名減員となった体制のため、仕事の負担が多くなりましたが、大きなトラブルも無く診療することが出来ました。新型コロナウイルス感染症の影響を受け、その月によっては手術件数に影響を受けました。出来るだけ患者さんに寄り添い、コミュニケーションを図り不安を軽減し、円滑な医療を行う様に努力いたしました。

小児科

【職員紹介】

●常勤医

齋藤 貴志（小児科医長）

日本小児科学会専門医

岡田 優子（2021年6月まで）

堀越 亜希子（2022年4月より）

●非常勤医

田中 大輔（月1回 神経外来）

古井 貞浩（月2回 循環器外来）

当直医として他数名（自治医科大学小児科より派遣）

【業務内容】

〈外 来〉

月曜日から金曜日まで午前是一般外来、午後は予約制で専門外来、予防接種、乳児検診等をおこなっている。また宇都宮地区小児二次救急輪番として毎週金曜日の夜間と月1～2回の日曜日の日中・夜間の二次救急当番を担当している。

発熱、感染症などの急性期疾患の診療に加え、気管支喘息やアトピー性皮膚炎、肥満、起立性調節障害などの定期診療などを行っている。神経疾患や循環器疾患については専門外来での診療も行っている。乳児健診は4か月と10か月健診を行っており、予防接種は宇都宮市の定期接種をはじめ近隣の市町村の小児にも対応している。シナジス接種に関しては主に紹介患者に対しての接種を行っている。

〈入 院〉

小児科の入院は主に4階東病棟の4床（2床部屋×2）にて対応している。必要時に個室入院も対応している。急性期疾患の入院がメインで1週間以内の入院が患者の8割ほどを占める。

主な疾患：気管支喘息、急性気管支炎、肺炎、急性胃腸炎・脱水症、熱性けいれん、有熱性尿路感染症、川崎病など

【2021年度総括】

前年度に続き、新型コロナウイルス感染症（COVID-19）の影響を強く受けた1年であった。外来、入院患者ともにCOVID-19前に比べ減少が続いたが、前年度に比して一月あたりで入院患者が回復した月も見られた。小児科診療が、新型コロナウイルス感染症の流行状況や行動制限などに強く影響を受けていることが自覚される1年でもあった。また急性期の患者数が明らかに減少している反面、不登校や不定愁訴（頭痛腹痛、めまいなど）での受診患者が増加した。起立性調節障害の患者は前年度も含めここ2年増加傾向にあった。

また7月からは常勤医が二人体制から一人体制へと変わり、外来、入院診療ともに制限される面もあった。次年度は常勤医二人体制に戻る予定であり、地域の小児医療にさらに貢献できる1年にできるよう、診療体制を充実させていきたいと考えている。

麻酔科

【職員紹介】

●常勤医

山崎 肇（麻酔科診療部長）

日本麻酔科学会専門医、麻酔科標榜医、ペインクリニック専門医

●非常勤医

大竹 一榮（名誉院長）

麻酔科標榜医、日本麻酔科学会指導医・専門医、日本集中治療医学会専門医

村田 克介

日本麻酔科学会麻酔科専門医・指導医

團 智芳

日本麻酔科学会麻酔科専門医

【業務内容】

2021年度	麻酔担当手術件数	698件	（全手術数 1,048件 内緊急手術133件）
	内 全身麻酔件数	620件	（硬膜外麻酔併用 134件）
	脊髄くも膜下麻酔	78件	

外科、整形外科、胸部外科、泌尿器科、脳神経外科、眼科手術の麻酔管理を行った。

【2021年度総括】

各日2～3名の麻酔科医師を確保することにより、週3日の麻酔科外来における術前診察と午前1～2列、午後2～3列の手術枠を維持できた。各科の先生方ならびに各方面のスタッフ各位の協力を得て、円滑で安全かつ効率的な手術室運営を行うことができた。新型コロナ流行の最中であるが、幸い手術件数に大きな影響なくコンスタントな件数を維持できたものと感じる。麻酔業務に関しては麻酔科外来診察時の情報から検査異常や既往症、合併症のある症例については院内各科の先生方と連携しながら麻酔科医師間においても情報を共有し、より安全な麻酔法を検討し合いながら業務に向き合っている。リスクの高い症例も年々増加しているように思われる中、重大な合併症や事故等なく安全な麻酔管理を行うことができた。

外来診療

【非常勤医(自治医科大学、獨協医科大学)による外来診療科】

- 一般内科（総合診療内科）
- 内分泌代謝科
- 膠原病・アレルギー内科
- 神経内科
- 血液内科
- 血管外科
- 耳鼻咽喉科
- 皮膚科
- 放射線科
- 病理科

4

看護部

4 階南病棟（回復期リハビリテーション病棟）

【職員紹介】

- 医師
専任常勤医師：3名
- 看護部
看護師長：野澤 明美
副看護師長：大谷 陽子
看護師：15名
看護補助者：7名
クラーク：1名
- リハビリテーション部門
理学療法士6人・作業療法士4人・言語聴覚士2人
- 退院支援部門
医療ソーシャルワーカー1名

【業務内容】

- 回復期リハビリテーションの対象となる患者
 1. 脳血管疾患・脊髄損傷等の発症または手術後2か月以内の状態の患者
 2. 大腿骨・骨盤・脊椎・股関節または膝関節の骨折または手術後2か月以内の患者の状態
 3. 外科手術後または肺炎等の治療時の安静により生じた廃用症候群を有しており、手術後または発症後2か月以内の状態の患者
 4. 大腿骨・骨盤・脊椎、股関節・膝関節の神経、筋、靭帯損傷後1ヵ月以内の状態の患者※1～4に該当し、社会復帰を目的とする患者が対象となる
- 許可病床
46床（入院患者のうち2割を療養枠として利用可）
- 看護体制
看護基準：13：1
看護体制：2交代制 2人夜勤
看護提供方式：固定チームナーシング

【2021年度総括】

地域包括病棟がコロナ病棟に変換となり、回復期リハビリテーション病棟が一部役割を担っている状況の中、月平均入院患者38名・在宅復帰率87.6%・重症者割合48.8%・改善者の割合は67.0%の結果であり、施設基準をクリアすることが出来ました。患者様の自宅復帰をサポートするために多職種と協働し身体的ケアや精神的サポート、家族ケアにも力をいれ、日々看護を実践しています。

【2022年度目標・計画】

1. 回復期リハビリテーション病棟としての役割を理解し病院経営の参画
2. この病棟に入院して「よかった」と感じられる看護の提供
3. 看護師個々が目指すキャリアの実現
4. 感染・医療安全に対する意識を高め、安全な医療の提供

4 階東病棟

【職員紹介】

●看護部

看護師長：山崎 敦子
副看護師長：神作 真由美
看護師：24名
看護補助者：5名
クラーク：1名

【業務内容】

●入院診療科

循環器内科：心筋梗塞、心不全を主とする心疾患
消化器外科：胃癌、大腸癌、胆嚢炎、鼠経ヘルニアの手術が多くを占める
がん化学療法、がん終末期の緩和ケア
消化器内科：早期胃癌・大腸がん、総胆管結石等に対する内視鏡的治療を主とする
消化器疾患
脳外科：くも膜下出血、慢性・急性硬膜下血腫、脳梗塞など
泌尿器科：膀胱癌、前立腺癌、尿管結石
小児科：川崎病、気管支喘息、肺炎など

●許可病床

50床 病床利用率：82.8%
平均入院患者数：41.4人
平均在院日数：9.9日
看護必要度：36.4%

●看護体制

看護基準：10対1
看護体制：2交代制
看護提供方式：固定チームナーシング

【2021年度総括】

年間予約入院は554件、緊急入院が827件で緊急入院が全入院の約60%を占める。COVID-19対応病棟の設置に伴う病棟編成により、地域包括ケア病棟で対応していた泌尿器科が加わり6つの診療科の看護を担うことになった。医師を交えた勉強会を行い泌尿器科看護の知識の習得に努めると共に、急性期から退院支援、終末期に至るまでの看護実践に取り組んだ。

【2022年度目標・計画】

1. 診療報酬改定に適切に対応し、安定した病棟運営をする
2. 患者に優しい看護を提供し、患者サービスの充実化を図る
3. 個々のキャリアアップのための研修受講、看護の振り返りの促進
4. 感染、医療安全に対する意識を高め、安全な看護が提供できる

3階北病棟（地域包括ケア病棟、2021年9月～新型コロナウイルス感染症対応病棟）

【職員紹介】

●看護部

- 看護師長：星野 紀恵
- 副看護師長：村上 智子、佐藤 允彦
- 看護師：18名
- クラーク：1名

【業務内容】

●地域包括ケア病棟の対象となる患者

1. 急性期を経過し、状態が安定した患者
2. 在宅療養に不安がある患者
3. 自宅や介護施設において急性増悪した方
4. 家族の介護負担を軽減するために、一時的に入院を引き受けるレスパイトの方

●許可病床

49床（新型コロナウイルス感染症対応中は18床）

●看護体制

- 看護基準：13対1
- 看護体制：2交代制 3人夜勤（新型コロナウイルス感染症対応中は原則2人夜勤）
- 看護提供方式：固定チームナーシング

【2021年度総括】

地域包括ケア病棟時は、病棟稼働率 78.5%・在宅復帰率 85.2%でした。

9月から新型コロナウイルス感染症対応病棟へ再編成し、0歳から100歳までの幅広い年齢層の患者を対応しています。感染拡大縮小に伴う入院患者数の変化や治療など対応の変化を早期に把握し、臨機応変な対応を行ってきました。また、感染防止対策を十分に行いながら患者の個別性を考慮した看護の提供に務めてきました。スタッフの感染者はいませんでした。

【2022年度目標・計画】

1. 安全な新型コロナウイルス感染症対応病棟の運営、地域包括ケア病棟再開へのスムーズな対応と運営
2. 退院アンケート結果・患者満足度調査結果の向上
3. 看護師個々が目指すキャリアアップの実現
4. 転棟によるレベル3b事例の低減

3 階東病棟

【職員紹介】

- 看護部
看護師長：内糸 舞弥
副看護師長：峯崎 博子、篠澤 立暁
看護師：22名
看護補助者：6名
クラーク：1名

【業務内容】

- 入院診療科
整形外科、呼吸器外科、呼吸器内科、腎臓内科、眼科
- 許可病床
48床
- 看護体制
看護基準：10：1
看護体制：2交代制 3人夜勤
看護提供方式：固定チームナーシング

【2021年度総括】

地域ケア病棟がコロナ病棟へと配置転換をしたことに伴い、1日平均患者数41.5名（2020年度39.5名）、平均稼働率86.3%（2020年度82.6%）と前年度より増加し、急性期病棟での退院調整を行うことが急務となりました。スタッフ一人ひとりが入院時より退院を見据えた関わりを持ち、多職種と連携を強化することにより以前よりも退院調整がスムーズに行えるようになりました。結果として平均在院日数13.7日（2020年度15.9日）と前年度よりも短縮できました。

【2022年度目標・計画】

1. DPCⅡ期越え患者の減少
2. 患者に優しい看護を提供し患者サービスの充実化を図る
3. 小集団活動を推進し、やりたい看護を実践する
4. 感染、医療安全に対する意識を高め、安全な看護の提供ができる

透析室

【職員紹介】

●看護部

看護師長：内糸 舞弥（兼任）
副看護師長：関谷 由美子
看護師：4名

●医師

腎臓内科常勤医：2名
非常勤医：1名

●臨床工学技士

副臨床工学技士長：1名
技士：3名

【業務内容】

血液透析（HD）ベッド数（18床：個人透析室：1床含む）
腹膜透析（PD）
腹水再灌流（CART）
特殊透析（エンドトキシン吸着 LDL吸着など）

CKD治療からシャントOPE、血液透析新規導入から外来維持透析。

（サテライトからの紹介による）入院加療が必要な透析患者の入院透析

シャント狭窄に対するシャントPTA

腹膜透析（月1回の外来診察・年2回カテーテル交換・年1回PET・KT/V検査）

*PDとHD併用のハイブリット治療も実施

【2021年度総括】 *実績は腎臓内科医師の内容を参照ください*

- 2022年2月より透析ベッド10床から18床（最大24床まで増床可能）に増床となり、月曜から土曜まで2クール実施しています。
- 昨年度は新規導入患者数37名、透析治療、血圧や食事・内服などの自己管理、シャント管理など導入期指導、検査値の推移を見ながら維持期指導など実施。
- 顔の見える関係性を早期に構築し、治療や生活面での不安を傾聴し、個々に寄り添った看護提供を心掛けています。

【2022年度目標・計画】

- 2022年4月より、透析室ベッド増床に伴い透析室が病棟管轄から独立した部署になりました。それにより更なる透析導入件数増加や実施率増加を目指しています。
- 導入期から維持期、検査や手術など治療目的患者の受け入れも行き、中核病院としての役割を果たせるように、他職種連携で取り組んでおります。
- 透析治療の高度化、複雑化に対応できるようにスタッフ全員が自己研鑽し、質の高い透析看護が提供できるよう日々努力しています。

手術室・中央材料室

【職員紹介】

●看護部

看護師長：増渕 仁美

副看護師長：川島 美佳

看護師：10名

看護補助者：2名

【業務内容】

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
外科	34	31	34	35	30	32	30	42	44	31	24	29	396
整形外科	13	15	22	17	20	18	17	15	11	16	14	16	194
泌尿器科	6	6	7	7	6	5	6	6	5	6	6	6	72
眼科	25	12	21	15	20	9	17	14	14	16	17	13	193
胸部外科	12	10	6	6	14	11	9	8	12	7	7	9	111
脳外科	1	2	3	3	3	5	2	2	1	3	1	2	28
内科	2	6	6	7	2	3	2	7	2	3	7	7	54
合計	93	82	99	90	95	83	83	94	89	82	76	82	1,048
全麻件数	51	46	51	54	52	55	53	58	62	45	43	50	620

【2021年度総括】

手術件数は2020年度1,080件から1,048件（32件減）となった。コロナ病床確保のために、地域包括ケア病棟閉鎖にともない急性期病床が逼迫しているため手術件数にも影響が出ている。しかし、全身麻酔件数の目標50件/月以上は平均51件で達成できており、手術件数の60%が全身麻酔で占めていることとなっている。また、緊急手術は土日を含めて133件であり、手術件数の12.7%であり、2020年度の15.5%よりは減少した。手術室に関わる各科の医長が参加する「手術・輸血委員会」は隔月に開催し、効率的な手術枠についてや麻酔科との調整など情報共有の場となっている。医師と看護師とのコミュニケーションは図れており、患者に最善の医療が提供できるよう情報の共有を行い、常に患者に安心して手術が受けることができるよう手術室スタッフみんなで取り組んでいる。

【2022年度目標・計画】

1. 手術件数の維持
2. 継続看護・周手術期看護の質の向上
3. 手術室看護師各々が目指すキャリアアップが実現できる
4. ヒヤリ・ハットレポートを提出することにより、医療安全への自覚とリスク感性を高める

外 来

【職員紹介】

●看護部

看護師長：石川 美香子、下妻 孝子、蕪木 亨有
副看護師長：西田 真知子
看護師：27名
夜勤専従看護師：1名
看護補助者：3名
クラーク：7名

【業務内容】

外来において外来受診者の診療介助、処置、検査説明、発熱外来、救急搬送患者の対応、外来輸血、化学療法、内視鏡検査の介助、心臓カテーテル検査の介助などを行っている。また、夜間休日の救急外来、二次救急も対応している。

●主な統計

外来患者数：7,613人/月平均
内視鏡検査件数：289件/月平均
化学療法件数：35件/月平均

【2021年度総括】

新型コロナウイルス感染症の流行のため、発熱外来の設置、対応手順の作成を感染管理認定看護師とともに整備し、外来の体制構築を実施した。

外来での小集団活動を入退院支援チーム、防災チーム、環境整備チーム、接遇促進チーム、感染予防チームでそれぞれ活動した。外来で実施した患者満足度調査では、看護師についての項目で複数の項目が昨年より評価点数がアップし成果を得ることができた。次年度の課題においても継続し、取り組んでいきたい。

【2022年度目標・計画】

1. 退職者0名
2. 患者満足度調査「看護師についての項目」の向上
3. 自己研鑽の強化
4. 災害看護の強化

訪問看護室

【職員紹介】

- 看護部
看護師長：橋本 美恵子
看護師：2名（外来兼務）

【業務内容】

- 訪問看護の対象
当院に通院中の患者で、訪問看護を必要とするもの（疾患は問わない）
- 訪問看護室の役割
 1. 訪問看護の提供
 2. 訪問看護や在宅療養に関する情報提供
 3. 退院前カンファレンス・サービス担当者会議への参加
 4. 介護支援専門員や介護保険サービス事業所との連携
- 訪問看護体制
看護師：1日2名体制
訪問看護提供時間：平日8：30～17：15

【2021年度総括】

訪問看護室が旧3階南病棟ナースステーションへ移動し記録や物品管理がしやすい環境となりました。訪問看護件数は、1日平均6.8件となり前年度比10.8%と目標を達成いたしました。訪問看護の主な対象者は、悪性疾患ターミナル、大腸がん術後ストーマ管理、糖尿病、呼吸器疾患、認知症等でした。また、特定行為研修終了看護師も加わり専門的な活躍を始めています。

【2022年度目標・計画】

1. 訪問看護件数の増加、新規患者の獲得
2. 訪問看護ステーション開設準備と開設
3. 患者のニーズに合わせたストマケアの質の向上

地域医療連携室

【職員紹介】

地域医療連携室長（副院長）：原 暢助
 看護師長：佐藤 里香
 副看護師長：杉山 貴子
 看護師：2名
 社会福祉士：狩野 香織、岡田 敦史、太田 恵
 事務職員：長久保 智子

【業務内容】

地域医療連携室は、病診連携（当院と診療所・クリニック）、病病連携（当病院と他の病院）を実施し、地域医療機関及び住民へ、良質な医療を円滑に提供できるようにするための窓口である。

当部署では、患者が安心して、スムーズな受診や入院ができるように、また退院・転院ができるように、医療機関、介護施設をはじめ、行政や福祉に関わる多くの施設やそれに携わる方々を「繋ぐ」役割を担っている。また、宇都宮市医療・介護連携支援ステーションとして、医療・介護に必要となる情報の提供や、医療・介護従事者との顔の見える関係づくりに向けた研修会を開催し、地域医療・介護従事者をサポートする相談窓口となり、関係機関との連携強化にも取り組んでいる。

【2021年度総括】

2021年度は、新型コロナの影響もあり初診患者数7,878人、紹介患者数4,644人、逆紹介患者数3,798人と、前年度より大幅に増加した。また、地域における新型コロナ感染症拡大に伴い、地域医療機関や施設などからの転院や受診依頼件数が増加する中、地域中核病院としての当院の役割を果たすべく、一人でも多くの患者を受け入れ、一人でも多くの患者を住み慣れた地域に戻せるように、院内外と連携を図り入退院支援・調整に努めた。

	初診患者数	紹介患者数	逆紹介患者数
2020年度	6,271人	4,428人	2,999人
2021年度	7,878人	4,644人	3,798人

【2022年度目標・計画】

1. 地域に密着した医療サービスを提供するため、地域医療機関との情報交換をこれまで以上に密に行い、病診連携・病病連携を推進する
2. 退院支援・退院調整、患者相談窓口の充実

5

診療協力部門

薬剤部

【職員紹介】

薬剤部長：神山 眞由美
 副薬剤部長：神田 直美
 主任薬剤師：山中 高行、高橋 紀代子
 薬剤師：岡村 尚、早乙女 崇史、須藤 紗織、関根 和美、大岩 真志
 薬剤事務：廣澤 佐和子、工藤 詩織

【業務内容】

調剤業務として、病院および附属老人保健施設の入院患者の入院調剤を実施。飲み違い防止のため一包化包装、定期薬の1回分毎配薬カートへの分配セット、中止変更薬の訂正処理業務を実施した。外来処方では97%が院外であり、薬剤部が疑義照会の窓口となり、2021年度保険調剤薬局と「疑義照会における合意書」を締結した。これにより、医師は多忙な外来業務での時間を割くことが軽減され、保険薬局では患者待ち時間の削減となり、患者サービスの向上に繋がった。今後も薬-薬連携を推進させ、安心して治療・投薬を受けて頂けるよう取り組んでいきたい。

◆処方箋・調剤数	2019年	月平均	2020年	月平均	2021年	月平均
老健処方箋	2,595	216.3	2,209	184.1	2,074	172.8
入院処方箋	28,731	2,394.3	26,747	2,228.9	26,383	2,198.6
院内外来処方箋	2,439	203.3	1,389	115.8	1,604	133.7
院外外来処方箋	63,362	5,280.20	53,022	4,418.5	53,918	4,493.2
院外処方箋発行率	96.3%	---	97.4%	---	97.1%	---

◆疑義照会	2019年	2020年	2021年	◆後発置換率	2019年	2020年	2021年
残薬調整	2,096	1,541	1,548	後発品数量	745,165	645,391	679,785
用法用量	743	1,013	790	後発あり先発+後発品	763,668	701,233	736,238
一包化・他	1,686	1,515	1,157	後発置換率	97.6%	92.0%	92.3%
合計	4,525	4,069	3,495	カットオフ値	60.5%	60.2%	62.2%

注射業務として、注射箋に基づく入院患者の日毎・患者毎セット、メイン輸液への混注、TPN無菌製剤処理、化学療法剤の混注などを実施した。薬剤師が注射薬の混合を行うことで、配合チェック、ルート確認等お薬の専門家としての力を発揮し、専用のクリーンベンチでの衛生的取り扱い等安全で効果的な治療に大変重要な役割を果たした。また、薬剤部で午前と午後の1日2回混注を行うことで、無駄を減らし、破棄本数の減少に繋がった。

化学療法剤（抗ガン剤）に関しては、鑑査体制をより強化し、被爆等扱う側の安全にも注意を払い、慎重な作業を行った。外来化学療法が主流となり、年々増加している。

◆注射箋・混注数	2019年	月平均	2020年	月平均	2021年	月平均
一般注射箋	75,767	6,313.9	54,232	4,519.3	54,894	4574.5
点滴混注数	5,735	477.9	4,293	357.8	5,331	444.3
無菌製剤処理件数	1,073	89.4	1,207	100.6	967	806.4
化学療法注射箋	692	57.7	460	38.3	580	48.3
化学療法混注数	1,146	95.5	909	75.8	1,322	110.2

重点業務の一つとして、全病棟の入院患者様対象に行っている病棟薬剤業務がある。

各病棟には担当の病棟薬剤師が常駐し、スタッフに対する薬剤情報提供や、医師や看護師など全スタッフとの情報共有、入院患者への薬剤管理指導や退院後の服薬支援の為の自己管理指導を行った。また、病棟医

薬品の品質や定数チェックなど、薬品管理業務も実施した。

◆薬剤管理指導	2019年	月平均	2020年	月平均	2021年	月平均
総指導患者数	3,864	322	3,330	277.5	3,100	258.3
患者指導実施率	86.8%	---	92.6%	---	95.7%	---
算定Ⅰ	1,654	137.8	1,979	164.9	2,036	169.7
算定Ⅱ	3,371	280.9	3,326	277.2	3,303	275.3
退院指導	1,566	130.5	1,420	118.3	1,335	111.3
延べ算定件数	6,590	549.2	6,725	560.4	6,674	556.2

◆医薬品在庫管理	2019年度	2020年度	2021年度
年間購入金額	366,927,923	270,043,041	288,152,504
年間出庫金額	386,426,253	284,816,117	306,329,185
年度末在庫	10,174,986	7,349,602	8,970,583
年間廃棄金額	995,907	756,993	1,159,066

この他、薬事委員会、化学療法委員会、医療安全管理委員会、感染管理委員会など、院内活動では、事務局、コアスタッフとして重要な役割を果たした。また、新型コロナウイルス感染症関連業務として、ワクチン調整、管理、接種事務処理、患者指導などを実施した。

◆薬事委員会	53回	54回	55回	56回	57回	58回	年6回開催
検討医薬品数	26	19	13	24	17	23	計122
D.I. 提供数	41	20	11	13	11	9	計105

【2021年度総括】

2021年度は、新型コロナウイルス感染症対応に注力した一年となった。新たに承認された治療薬であるベクルリー、ラゲブリオ、パキロビット等の入出庫管理、情報入力やワクチン関連業務に多くを費やした。また、2020年12月末の薬品回収から端を発し、医薬品の流通不良、回収、製造中止等相次ぎ、医薬品在庫欠品が複数製品に及び、医師と調剤薬局への情報伝達と調整に苦慮した。病棟薬剤業務は実施率95%を超え、病棟での信頼取得、経営への貢献に繋がった。薬剤師として院内の薬に関する全責任を担う気持ちで業務にあたってきた。今後も院内スタッフ、患者様、地域の皆様から信頼される病院・薬剤部であるために、スタッフ一同で取り組んでいきたい。

臨床検査科

【職員紹介】

部 長：鈴木 恵理（健康管理センター医長）
 臨床検査技師長：小鮎 哲也
 副臨床検査技師長：梅田 清徳
 主任臨床検査技師：鈴木 真里、向井 マミ、阿部 裕之
 臨床検査技師：大矢 恵子、山崎 容子、海老原 伸子、小野寺 理恵、篠原 晴美
 平野 景子、長尾 昂、吉田 倫子、鱒淵 仁志、石川 太気、酒井 愛瑛
 任期付技師：吉村 令子
 非常勤技師：福田 祐子、石原 富知重
 非常勤事務：高山 千明

【業務内容】

2021年度実績	診療部門	健診部門（巡回バス含む）
一般検査（糞便、尿、穿刺液検査）	42,950	42,527
微生物検査（一般培養、コロナ関連）	20,060	0
血液検査（血算、凝固、骨髓像など）	100,844	18,905
免疫血清検査	54,252	14,113
生化学検査	716,836	181,919
病理検査	6,978	0
生理検査（心電図、各超音波など）	13,763	40,573
計	955,683	298,037
合計	1,253,720	
外部委託（主に検体検査）	41,535	

【資格取得者】

認定技師（輸血、心電図） 3名
 超音波検査士（体表臓器、消化器） 1名
 血管診療技師 1名
 細胞検査士 1名
 二級臨床検査士（臨床化学、免疫血清学） 1名

【2021年度総括】

1. コロナ禍となり影響が最も大きい2020年度に比し、検査総件数は6.3%の増加となっているが、コロナ禍前の2019年度と比べると1.4%の減少となっている。
2. コロナ核酸増幅検査としてLAMP法を行っていたが、休日・時間外にも対応するため、2022年3月PCR法（コバスLiat）機器を導入し、至急検査を可能にした。

【2022年度目標・計画】

1. 迅速かつ質の高い検査を行う。
2. 自己研鑽に努め、専門知識と技術の向上を図る。
3. 機器及びシステムを更新、検査体制を整備し業務の効率化を行う。

放射線科

【職員紹介】

診療放射線技師長：藤本 健司
 副診療放射線技師長：星野 弘
 主任診療放射線技師：齋藤 直樹、柳田 秀幸
 診療放射線技師：遠藤 絵理子、館野 裕介、瀬崎 裕乃、大垣 善弘、小池 康輔、本橋 瑛莉佳
 加藤 紘侑、大久保 裕樹
 事務員：野澤 和枝

【業務内容】

診療部門では、一般撮影・透視検査・CT・MRI・マンモグラフィ・骨密度検査・血管造影検査・術中透視、撮影・病棟でのポータブル撮影などをおこなっています。

健診部門では、院内の健康管理センター、及び院外の巡回健診の業務に携わっています。

院内外共に胸部撮影と胃部透視検査をおこない、院内では他にも、マンモグラフィ、頭部MRI、骨密度、低線量肺がんCT検診、内臓脂肪CTなどもおこなっています。

画像は2010年より、PACS（医療用画像管理システム）により各科に配信され、すべての画像がデジタル保存されています。

来年度には画像保存容量不足のため、画像閲覧に支障が出ないように、サーバーとモニターを含め更新を検討しています。

また、認定資格（胃がん検診専門技師、検診マンモグラフィ撮影認定技師、肺がんCT検診技師、X線CT認定技師、臨床実習指導教員など）を取得している技師も数名おり、それぞれが自己研鑽に励んでいます。

【2021年度総括】

前技師長が退職し、異動により新たに技師長を迎え、新体制でスタートしたが、前年より続くコロナ禍により外来患者数の減少がみられ、ほぼすべての検査において件数が伸び悩みました。

また、超過勤務時間超過解消のため、業務シフトの変更と東京城東病院、さいたまMCより1名ずつ技師の応援をお願いし、超過勤務時間を削減することができました。

【2022年度目標・計画】

2000年より使用していたマンモグラフィ装置の更新をおこない、今まで以上の画像の提供と、マンモグラフィ施設認定取得を目指します。

リハビリテーション科

【職員紹介】

理学療法士長：相場 みどり

副作業療法士長：横山 奈美

主任理学療法士：狩野 剛

●急性期

理学療法士：石川 雅望、佐藤 隼人、落合 悠河、北村 大空、

野田 拓斗、佐々木 涼

作業療法士：塩澤 潤也、片柳 裕功

言語聴覚士：武藤 亜耶子、湯澤 舞、増渕 桂子

●地域包括ケア病棟

理学療法士：田崎 正倫

●回復期

理学療法士：東羅 祐子、高野 美佳、潮田 和弘、高木 憲彰、布施屋 夏実

作業療法士：高橋 強、上野 智子、山田 将太郎、伊澤 仁美（非常勤）

言語聴覚士：鈴木 あかね（R4.3.31退職）、野田 未咲、庄司 絵里（産休・育休代替）

●老健

理学療法士：堀川 剛、関根 恭裕

作業療法士：吉川 菜摘、星 佳保里、黒渕 麦

※認定理学療法士：5人、3学会合同呼吸療法認定士：3人

【業務内容】

施設基準

- ・脳血管等リハビリテーション料Ⅰ
- ・運動器リハビリテーション料Ⅰ
- ・廃用症候群リハビリテーション料Ⅰ
- ・呼吸リハビリテーション料Ⅰ
- ・がんリハビリテーション

		脳血管疾患等 リハビリ	運動器 リハビリ	廃用症候群 リハビリ	呼吸リハビリ	POCリハビリ	合 計
急性期	単位数	8,288	8,911	18,161	268		35,628
	人 数	1,810	3,569	7,980	179		13,538
回復期リハビリ テーション病棟	単位数	30,980	7,695	12,820	188		51,683
	人 数	5,855	3,036	4,641	90		13,622
地域包括ケア病棟 (9月より旧棟)	単位数	401	92	169	2	2,139	2,803
	人 数	78	31	54	1	1,860	2,024
外 来	単位数	684	3,326	2	25		4,037
	人 数	234	1,715	1	19		2,005
合 計	単位数	40,353	20,024	31,152	483	2,139	94,151
	人 数	7,977	8,387	12,676	289	1,860	31,189

●急性期

日曜日以外の毎日稼働しています。多様な疾患に対応しており、10診療科から合計728件の依頼がありました。内訳は廃用症候群59%、運動器27%、脳血管13%、呼吸器1%でした。後期高齢者（75歳以上）の占める割合は74%で、22%は超高齢者（90歳以上）でした。

●外来

平日のみ稼働しています。7診療科から112件の依頼があり、運動器87%、脳血管12%、呼吸器19.1%でした。後期高齢者の占める割合は35%でした。

●回復期リハビリテーション病棟

365日稼働しています。9診療科から258件の依頼があり、脳血管43%、廃用症候群34%、運動器22%でした。後期高齢者の占める割合は76%で、22%は超高齢者でした。

●地域包括ケア病棟

日曜日以外の毎日稼働しています。10診療科から152件の依頼があり、廃用症候群54%、脳血管32%、運動器13%、呼吸器1%でした。後期高齢者の占める割合は87%で、31%は超高齢者でした。

令和3年9月13日からCOVID-19対応病棟になったため、地ケア病棟は休棟になりました。9月11日までの実績は、疾患別7件（0.5%）、POC（生活リハビリ）136件（95%）でした。令和4年2月から3月までCOVID-19病棟において9名の理学療法を実施しています。

【2021年度総括】

●急性期

整形外科からの依頼が最も多く、中でも人工股関節全置換術が多くを占め、2～3週間での退院を目指しています。最近の全体的特徴は高齢者が増加していることです。74%が後期高齢者であり、入院以前から介護を必要としていた方や、認知症の既往のある患者様が年々増加しています。内科からの依頼も44%と増加しています。加齢等により機能改善や能力向上が望めない方に対しても少しでも自立した生活を送ることができ、QOLの維持・向上ができるようリハビリテーションが必要になっています。そのためにも、各職種専門性を生かしながら高齢者の活動性維持や認知症に対する知識・技術を高めていきたいと思えます。

●回復期リハビリテーション病棟

当院急性期からの転棟がほとんどですが、他病院から転院される方もおり、脳血管疾患が43%と多くを占めています。リハビリテーション医でもある脳神経外科医の栗田医師のご指導により、カンファレンスや多職種連携も充実してきました。当病棟は、患者様のADLを高めることが重要であり、転倒予防など安全面への配慮と実際にしているADLの拡大との両面に配慮しながら自立度を高めていけるよう他職種との連携をさらに深めていきたいと思えます。

●地域包括ケア病棟

ほとんどがPOC（生活リハビリ）で実施されており、リハビリテーション内容の充実を検討しながら運営してきましたが、9月より休棟にしています。再開できましたら、さらに充実できるようにしていきたいと思えます。

●外来

ほとんどが、人工股関節全置換術後の患者様であり、ご自宅での生活や自主トレの確認を含めて実施しています。今後も、自主トレの効果を高められるように進めていきたいと思えます。

栄養管理室

【職員紹介】

副栄養管理室長：綱川 理絵
栄 養 士：橋本 幸亜
栄 養 士：橋本 和香（8/4 退職）
老健主任栄養士：荻野 絵里

給食委託業者：日清医療食品株式会社
チーフ 中野 聡美（5/31まで）
木嶋 聡恵（6/1～）
スタッフ 栄 養 士：5名
調 理 師：7名
調理補助：17名

【業務内容】

1. 栄養管理業務、栄養食事指導業務、NST・回復期専任業務兼管理業務と、効率よく業務を熟せるよう業務配分を行った。
2. 給食業務に関しては、令和2年度より病院と合わせて附属老健施設の給食も賄っているが、昨今のコロナ感染症への対応にて、健康管理センターの食事提供は今年度も中止とした。
3. コロナ感染症に対してはディスポ食器を使用し、温冷配膳車にて食事を提供した。
4. 食器の劣化、及び患者満足度の向上を図るため主菜皿の更新を行った。
5. 患者給食用非常食（*a*化米）の期限内消費を実施し、更新を行った。
6. 実習生の受け入れについては、今年度初めて宇都宮短期大学（食物栄養学科2年 1名）10/4～11日実施。また例年通り、東洋大学（食環境科学部 健康栄養学科2名）2022年2月14日（月）～3月7日（月）について実施した。

令和3年度 部署目標

- | | |
|------------------------|-----|
| ① 入院時初回栄養指導の件数増（12件/月） | 達成 |
| ② 入院時継続指導の件数増（30%/月以上） | 未達成 |
| ③ 外来継続指導の件数増（66件/月） | 未達成 |
| ④ NST実施件数の増（22件/月） | 未達成 |

【2021年度総括】

1. 人員が年度途中で欠員となってしまう、栄養指導件数については目標達成に至らなかった。
2. NSTに関しては、専任者不在のため非算定となり、各職種において専任者の増が必須である。また専任者を増やすためには各部署においてNST活動の理解を深め、専任者に対する業務時間の割り当て等が今後必要であると感じている。
3. 給食に対する患者満足度調査の結果が年々低評価となっているため、委託業者との連携を密にし、食事の改善に取り組む必要がある。

麻酔科診療部 (ME)

【職員紹介】

- 臨床工学技士
 - 副臨床工学技士長：佐瀬 秀知
 - 臨床工学技士：神田 大地、郡司 滉平、緒方 諒平

【業務内容】

血液浄化業務	心臓カテーテル業務
・血液透析	ペースメーカー業務
特殊血液浄化業務	人工呼吸器業務
・血球成分除去療法	ME 機器管理業務
・腹水濾過濃縮再静注法	・輸液ポンプ
・血漿交換法	・シリンジポンプ
・吸着式血液浄化法	・除細動器 AED
	・経腸ポンプ

【2021年度総括】

1. 臨床工学室では、現在4名の技士が従事しています。
2. 透析室業務においては、今年度よりベッド数が10床から18床に増床となったため新規購入の透析患者監視装置等の取り扱い方法や点検方法の情報収集や見直しを行い業務にあたりました。又、透析患者数の増加に伴い、シャント穿刺困難、シャント狭窄や閉塞の割りあいも増加傾向にあり、技士によるシャントエコーの実施等も日々行いました。
3. 特殊血液浄化業務に関しては、LDL吸着療法と腹水濾過濃縮再静注法を行いました。
4. 循環器関連業務では、心臓カテーテル室でのモニター管理、IVUS・iFRの機器操作・点検を行いました。又、ペースメーカー業務では、メーカー立会いのもと機器のチェックを行いました。
5. 人工呼吸器業務としては、年間計画スケジュールを元にアナライザー点検を行い、呼吸器使用時には、日々の動作状況等の確認ラウンドを行いました。
6. ME機器管理業務としては、輸液ポンプ、シリンジポンプ、経腸ポンプの管理を一括して中央管理を行い、ポンプの未点検が無いように管理しました。

6

事務部門

総務企画

【職員紹介】

●常勤職員 5名

事務長補佐：古瀬 信也
総務係長：井上 通重
職員係：小川 直子
給与係：松本 相織
総務係：江原 隆文

●非常勤職員 8名

電算室：瀬尾 直良
総務係：佐藤 碧
電話交換係：橋本華奈子
電話交換係：橋本 依里
職員係：木嶋 敏江
職員係：桐原 純子
厚生係：鷹野 雅
厚生係：森戸 佑葵

●派遣職員 1名

電算室：櫻井 志和



※写真は第8回市民公開講座(11月17日開催)の風景

【業務内容】

人事、給与、労務管理、施設整備・管理、電話交換、電算室、広報、各行事の企画・進行の他、部署に属さない業務を含めて行っています。

【2021年度総括】

第8回 市民公開講座開催（宇都宮市南図書館サザンクロスホール）
広報誌「新しいずみ」年3回（5月・9月・1月）発行

【2022年度の計画】

超過勤務の削減と年次休暇取得率向上を目標とし「働き方改革」を推進する。
また、患者様の満足度向上を目標とし、院内の施設整備を進めていく。

経 理

【職員紹介】

●常勤職員 5名

事務長補佐：五十嵐 貞之

契約係長：栗野 博道

経理係長：清宮 正博

財務管理係：野澤 伸子

契約係：小室 晶子

●非常勤職員 2名

経理係：武田 亜由実

契約係：清水 佐季

【業務内容】

1. 予算、決算及び財務書類等に関する
2. 債権及び債務管理に関すること。
3. 契約に関すること。
4. 固定資産管理に関すること。

【2021年度総括】

1. 2021年度決算においては、500千万円以上の経常収支額を計上した。
2. 2021年までの累積収支についても経常収支が黒字計上となった

【2022年度の計画】

1. 各係員の業務見直しと超過勤務の削減の実施
2. 材料費・消耗品費等の費用削減への取り組み
3. 契約準備期間を遵守した契約の締結

医 事

【職員紹介】

●常勤職員 5名

事務長補佐：今井 晃司
算定病歴係長：加藤 優一
入院係：高橋 正美
診療情報管理員：篠崎 誠
医事係：栗原 咲季

●非常勤職員 6名

外来係：秋山 貴宏
外来係：深井 梨央
外来係：青柳 悦男
外来係：斎藤 靖
算定病歴係：村越 美咲
外来係：杉山 由佳利

●他 委託スタッフ

【業務内容】

受付業務、会計業務、診療報酬請求業務、患者負担金徴収業務、各種文書管理業務、紙カルテ出入庫管理業務、診療情報に関するデータ管理業務、未収金管理業務、発熱外来受付業務 など

【2021年度総括】

業務内容の見直しを図り一人当たりの超過勤務の削減を行った。マイナンバーカードによる認証システムの導入を行い運用を開始した。

7

健康管理センター

診療部

【職員紹介】

平川 隆一

センター長（2022年3月まで）

八木澤 隆（病院長） 自治医科大学名誉教授／客員教授

センター長（2022年4月より）

宇賀神卓広（健康管理センター医長）（2022年4月より）

専門：消化器内科 日本内科学会総合内科専門医、日本消化器病学会専門医、日本消化器内視鏡学会専門医、日本肝臓学会肝臓専門医、日本消化器がん検診学会総合認定医、日本人間ドック学会専門医・指導医、日本医師会認定産業医

鈴木 恵理（健康管理センター医長）

専門：呼吸器内科 日本内科学会総合内科専門医、日本呼吸器学会専門医、日本呼吸器内視鏡学会専門医、人間ドック健診情報管理指導士（人間ドックアドバイザー）、マンモグラフィ読影試験成績認定医、乳がん検診超音波検査判定医、肺癌CT検診認定医、インфекションコントロールドクター（ICD）、日本人間ドック学会専門医、日本医師会認定産業医

照内 聡美

専門：呼吸器内科 日本内科学会認定内科医、日本内科学会総合内科専門医、日本呼吸器学会専門医、インフェクションコントロールドクター（ICD）、日本医師会認定産業医

【業務内容】

施設、巡回健診での診療業務、各専門医による読影業務（心電図、胸部単純X線・CT、上部消化管X線・内視鏡、乳腺画像検査、頭部MRI）、および健診結果報告書の作成等の業務を行っている。宇都宮市を中心に栃木県内の自治体健診、予防接種、企業の定期健康診断・特殊健康診断、産業医業務などの予防医療活動を通して、地域社会への貢献を目指している。巡回健診は、地方の事業所で働く人々に健診受診の機会を提供し、予防医療の地域格差是正のために重要な職務と考え取り組んでいる。健診有所見者に対しては受診勧奨を行い、当施設をはじめ、適切な医療機関への早期受診を促している。

【2021年度総括】

2021年度の受診者数（延べ）：19,130名（内訳：院内健診 9,656名、院外健診 9,474名）。新型コロナウイルス感染対策を適切に講じ、安心して健診を受けて頂けるよう配慮している。当施設職員および宇都宮市の新型コロナワクチン接種も実施している。

【2022年度目標・計画】

1. 引き続き、新型コロナウイルス感染対策を適切に行っていく。
2. 過去に健診受診歴があり、今年度未受診の方々に対して受診勧奨文書を発送して、受診漏れを防ぎ、同時に施設としても受診者の維持・確保につなげる。
3. 最近、血液検査で各種疾病のリスク診断などを行う検査が開発され、予防医学分野で実用化されている。オプション検査として受診者の皆様に案内し、健康意識の向上を目指す。

看護部

【職員紹介】

看護師長：野澤 明美（～7月）、蕪木 享有（7月～11月）、下妻 孝子（11月～）
副看護師長：矢吹 有子、中三川 裕子（～7月）
保険師：2名
看護師：3名
准看護師：1名

【業務内容】

1. 各種健診における問診、計測、採血および診察介助。（院内・巡回健診）
2. 保健指導（特定保健指導含む）
3. 健康管理センター便り“いきいき”発行
4. 各種予防接種
5. 乳児検診

【2021年度総括】

安心、安全な健診の提供の理念に基づき、健診、保健指導を実施している。健診受診者数は、院内・巡回健診合わせて19,130人/年だった。特定保健指導は、初回支援77件/年で、昨年度を下回った。健診当日の特定保健指導に取り組んでいたが、目標を達成することができなかった。今後も、事業所訪問による特定保健指導の継続と、院内健診利用者への分割実施に取り組んでいきたい。

【2022年度目標】

1. 特定保健指導実施件数増加
2. オプション検査勧奨
3. 健診環境の整備と業務改善
4. 安全な健診の提供
5. 職員のキャリア支援

管理課

【職員紹介】

係長：矢口 敬子

課員：川嶋 信行、佐藤 悠、高橋 孝正、恵 カツエ、飯野 政子、高塩 恵子

委託スタッフ：7名

【業務内容】

人間ドック（日帰り・2日コース） 巡回健診車による健診

生活習慣病予防健診 定期健康診断（法定健診）

住民健診 特殊健診 雇入れ時健診 職員健診 各種ワクチン接種

【2021年度実績】

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
受診者数	1,329	1,548	2,063	1,689	1,595	1,855	2,206	1,967	1,405	1,008	1,137	1,328	19,130
内 院	394	465	988	979	886	880	1,072	1,000	907	677	708	700	9,656
訳 院	935	1,083	1,075	710	709	975	1,134	967	498	331	429	628	9,474

【2021年度総括】

新型コロナウイルス感染症の影響を大きく受けた2020年度に比べ、2021年度は、受診者数、収益ともにコロナ禍前の95%以上に回復することが出来た。

特に受診者のニーズに合わせたオプション検査の充実は収益増、受診単価増につながっている。

しかし、受診者数は年々減少傾向にあるため、新規オプション検査の導入や受診勧奨により、リピーターの確保、新規受診者獲得に努めた。

また、受診者数の約半数を占めている巡回健診は、健診バスの老朽化により縮小せざるを得ない状況にあり、巡回健診の今後の方向性が大きな課題である。

【2022年度目標・計画】

1. 受診者数の確保（院内9,615人、院外5,906人、合計15,521人）
2. オプション検査の売上増（対前年比2%の売上増）
3. 営業活動の強化（新規企業の獲得、オプション検査の勧奨、特殊健診の拡大）
4. 受診者サービスの向上（健診結果の早期送付、精密検査の勧奨）
5. 健診の質の向上（外部精度管理への参加、県内健診施設と連携した協議会への参加）
6. 閑散期対策（未受診者への受診勧奨、地域住民割引ドックの実施、期間限定割引ドック実施）

8

附属介護老人保健施設

看護介護部門

【職員紹介】

看護師長：石母田 恵美
副看護師長：荒山 芳江・内田 千代
看護職員：12名（常勤10名・非常勤2名）
介護職員：35名（常勤31名・非常勤4名）
主任介護士：鶴牧 明訓・渡邊 亮
介護療養職員：2名（非常勤2名）

【業務内容】

（入所）入所定員（一般・短期）：2階50名・3階50名
（通所）通所定員：30名

介護老人保健施設では、一般入所と短期入所（ショートステイ）の受け入れをしています。在宅復帰施設として在宅生活を安心して過ごせるように、介護支援やリハビリテーション、栄養管理を行い在宅復帰支援を多職種連携し行っています。また胃瘻からの経管栄養や喀痰吸引、膀胱留置カテーテル挿入など医療度の高い方も入所されており、全身管理を行っています。その人らしい生活や楽しんで日常生活が送れるように、また季節感を感じていただけるようなイベントも工夫しながら開催しています。コロナ禍で家族との面会ができない状況が続いているため、手紙を送るなど家族との絆も大切にしています。

【2021年度総括】

（入所）入所者延人数：27,423人（通所1,266人）
入所率：75.2%
在宅復帰率：48.2%
平均介護度：3.4
（通所）通所者延人数：5,581人
1日当り利用者数：23.1人
通所利用率：76.9%

2021年度は10月から超強化型から加算型に変更となりました。入所者増加に向け在宅復帰を調整していましたが、目標には到達できませんでした。支援相談員と新規入所者数の動向などを確認しながら、家族の意向を確認し在宅復帰や施設入所を進めていきたいと思ひます。そのためにも多職種が情報共有し、それぞれの役割を果たせるように連携を強化していきたいと思ひます。

管理部門

【職員紹介】

- 管理者
 - 施設長：木平 百合子（副院長兼務）
 - 副施設長：栗原 勝幸
- 診療部門
 - 薬剤師：1名（病院兼務）
 - 理学療法士：2名
 - 作業療法士：3名
- 業務部門
 - 管理係長：1名
 - 支援相談員：2名
 - 介護支援専門員：1名（支援相談員兼務）
 - 管理栄養士：1名
 - 事務員：2名（うち非常勤1名）
 - ドライバー：3名（非常勤）

【業務内容】

介護老人保健施設の役割はさまざまな専門知識・技術を持った施設スタッフや協力スタッフがチームとなり利用者様が在宅で過ごせるよう支援をいたします。当施設はうつのみや病院の併設施設として宇都宮市南部の地域包括ケアシステムの中で要介護高齢者が生活を継続するために医療と保健・福祉のケアを提供しています。

- （入 所）入所定員：100人（2階50人、3階50人）
- （通 所）通所定員：30人

サービス種類と利用内容

- ①介護老人保健施設
 - 医療機関等から入所をしてリハビリ訓練を行いながら在宅復帰を目指す。
 - 最期の時を過ごす。（看取り）
- ②（介護予防）短期入所療養介護
 - 家族の介護負担軽減を目的として利用する。
- ③（介護予防）通所リハビリテーション
 - 自宅から施設に送迎あり、リハビリテーションを受ける。

【2021年度総括】

2020年から新型コロナウイルス感染症の影響で通所利用を控える方が見受けられた。また、リハビリ職員減も影響して2021年10月からサービス体系を「超強化型」から「加算型」に落とし、前年後期で収益を比較すると月460万円の減収となった。

下記の表で示している入所率75%と低い結果となったのは前期「超強化型」で必要な要件であった在宅退所50%超で退所を促したこと、年間通して入所者様の体調を重視し早期に入院させたことで退所者数が新規入所者数を上回ってしまったことが原因であったかと思われる。

	入所延数(うち短期入所延数)	通所延数
累計(人数)	27,423 (1,266)	5,581
累計(率)	75.1%	76.9%

地域包括支援センター雀宮

【職員紹介】

センター長：木平 百合子（老健施設長兼務）
 主任介護支援専門員：関 貞子
 社会福祉士：滝田 治子
 看護師：高橋 香奈子、斎藤 朋美
 主任介護支援専門員：渡邊 有希子

【センター概要】

宇都宮市25か所のうち、宇都宮市南部の雀宮地区を担当として活動を実施。

【業務内容】

- 総合相談支援業務（延べ310件）
 - 総合相談の充実を掲げ、身近な地域でワンストップの対応を実施
 - 「高齢者の自立支援・重度化防止」の認識をもった相談対応・高齢者を取り巻く複雑化、複合化した課題に対しては、他分野にまたがる支援機関のネットワーク活用
 - コロナ禍における「新しい生活様式」に対応した安全で安心な暮らしを支える情報提供
- 介護予防ケアマネジメント業務
 - 地域別データ分析結果を活用し、地域特性に合わせた介護予防の仕組みを構築
 - 地域の保健師と情報提供や健康教育との一体的な介護予防を実施
 - 地域住民が介護予防や健康管理に自ら取り組み、継続できるような活動支援を実施
 - 専門職からの助言指導などを活用し、総合事業による多様なサービスを組み合わせ「高齢者の自立支援・重度化防止」に向けたケアマネジメントの実施
- 包括的継続的ケアマネジメント業務
 - 医療・介護連携支援ステーションとの連携・会議の参加・地域の介護支援専門員への支援
 - 地域ケア会議や第2層協議体を活用した地域ネットワーク充実と地域課題の把握・解決
 - 地域住民へ出前講座等を活用し、介護予防・自立支援に関する意識の共有化を図る
- 権利擁護支援業務（延べ26件）
 - 高齢者の虐待防止の啓発や対応、成年後見制度の周知や支援等を実施

【活動実績】

介護予防支援	介護予防ケアマネジメント
1,474件	424件

- 地域ケア会議開催7回・第2層協議体2回参加
- 介護予防教室の開催：3会場（延べ234人）
- 南ブロック介護支援専門員情報交換会（1会場16人）
- 健康講座・認知症サポーター養成講座：（33会場 延べ391人）

【2021年度の総括】

「新型コロナウイルス感染防止」を掲げながら、安全に介護予防教室開催や、介護予防の重点項目である「フレイル予防」「転倒予防」「認知症予防」の普及啓発を実施することが出来た。住民主体の介護予防の通いの場の支援を行ったが、コロナ禍により活動を中止する会場が多かったため、今後の課題として地域活動が停滞しても、自宅でできる健康づくりをサポートできる対策を構築していきたい。地域ケア会議については、従来小学校ブロック毎に開催をしていたが、コロナ禍であるため参加人数も考慮し、自治体単位で実施。身近な地域住民と地域課題について十分に話し合うことが出来た。

【2022年度目標】

「高齢者虐待の早期発見対応と成年後見制度の利用促進」に取り組み、高齢者が地域において、安心して尊厳ある生活を行うことが出来るよう、専門的・継続的な視点から支援を行えるようにしていく。

居宅介護支援センター

【職員紹介】

センター長：木平 百合子（老健施設長兼務）
 居宅事業所管理者：稲葉 陵一（主任介護支援専門員）
 介護支援専門員：星 喜男（主任介護支援専門員）
 吉田 裕美（主任介護支援専門員）
 島世 由美子

【業務内容】

宇都宮市の指定を受け、介護支援専門員を配置しています。

居宅介護支援とは、居宅の要介護者が居宅サービス等を適切に利用できるように、心身の状況、置かれている環境、要介護者の希望等を勘案し、居宅サービス計画を作成するとともに、サービス事業者等との連絡調整を行います。また、介護保険施設などへの入所を希望する場合は当該施設等への紹介を行います。

1. 相談業務

利用者や家族の相談に応じアドバイスをを行います。

2. ケアプランの作成

利用者の希望に沿ってアセスメント（情報収集）し課題を分析します。

目標を設定して支援メニューなどを含めてサービス担当者会議で検討します。

保健・医療サービスや福祉サービスなどを組み合わせてケアプランを作成します。

3. モニタリング・ケアプランの見直し

4. 自治体、病院、事業所等との連絡・調整

5. 給付管理業務

6. 地域包括支援センターから介護予防支援業務の委託

要支援者が介護予防サービス等を適切に利用できるよう、心身の状況、置かれている環境、要支援者の希望等を勘案し、介護予防サービス計画を作成するとともに、サービス事業所等との連絡調整を行います。

7. その他

介護保険の代行申請等

【2021年度総括】

2021年度での件数（要介護のみ）の延べ人数として、2020年度：件数1,367件、2021年度：1,454件と利用者が前年度に比べて件数が増加、入院時情報提供加算件数も2020年度：件数27件、2021年度：36件と増加しました。

2021年度での請求額（要介護のみ）については、2020年度：¥22,417,916、2021年度：¥24,464,601と請求額も前年度に比べて収入が増加しました。

編集後記

2022年度も後半となりましたが、本年度よりJCHOうつのみや病院も当院で行われる診療内容や特色を広く近隣医療機関およびJCHO関連病院の皆様方へ知って頂くために、年報を発刊する運びとなりました。

本年報を発刊するにあたり業務多忙の中、各部門の皆様には執筆・編集作業にご協力頂き、誠にありがとうございました。

この年報によって外部の医療機関の皆様にご来院をより知って頂くと同時に当院の職員も自分の病院の事を改めてより深く知り、明日からの病院運営に役立てて頂けるのではないのでしょうか。

新型コロナウイルスの感染拡大により、私たちの生活スタイルが一変してしまってから早2年半が過ぎました。世界ではアフターコロナを見据えて様々な規制が緩和され、日常生活を取り戻した光景をメディアなどで目の当たりにする機会が増えてきました。日本でも夏にかけてオミクロン株が流行の主流を占める中、様々な規制を緩和し、日常生活を取り戻そうとする動きが見られています。一方でそのような動きの中で感染が拡大し、医療崩壊と言われる事象が全国で多数起こり、感染した患者や家族はもちろんのこと、医療従事者やその家族にも多大な負荷がかかる状況も生まれてしまいました。

当院では6月に初めてクラスターを経験し、診療を止めざるを得ない事態となりました。診療を再開させるために様々な立場の職員からさまざまな意見が出る中で、皆自分達の役割を忠実に果たし、クラスター収束に至りました。その経験を生かしつつ、夏の第7波では各地で医療崩壊が起こるなか、当院では職員一人一人が高い感染予防意識を持ち続け、結果として通常診療を一度も止めることなく活発に行うことができました。

今後も困難な状況の中でも職員が一致団結し診療機能の充実を図り、より地域に貢献できる病院へ成長できる事を祈念して、編集後記と致します。

令和4年10月24日

外科医長 目黒 由行

年報委員会

委員長	院長	八木澤 隆
副委員長・医局担当	外科医長	目黒 由行
総括・部署担当	総務企画課 事務長補佐	古瀬 信也
看護部担当	看護部 副看護部長	彗田 理恵
診療協力部門担当	リハビリテーション科 副作業療法士長	横山 奈美
健康管理センター担当	健康管理センター 管理課	高橋 孝正
附属老健担当	附属老健 管理課 管理係長	山下真由美
事務部・委員会担当	総務企画課 総務係長	井上 通重
事務部・委員会担当	総務企画課 総務係	水野 康之

令和3年度 病院年報

発行日 令和4年11月

発行 独立行政法人 地域医療機能推進機構

うつのみや病院

栃木県宇都宮市南高砂町11番17号

電話 028-653-1001

企画編集 年報委員会



独立行政法人 地域医療機能推進機構
Japan Community Health care Organization : JCHO

うつのみや病院
Utsunomiya Hospital